

- 何れの場合でも透視畫法の正しい理解ありやなしやを考ふる必要がある。それに對する理解が不十分であつたら相當力を入れて指導する様にせねばならない。
- 五 圖案の如きはなるべく實用方面を顧慮し、指導したい。
 - 六 畫の見方につき指導する。
 - 七 高小國史に表れたる日本畫及び畫家と連關して鑑賞及び繪畫の常識を養ふ様にする。
 - 八 西洋繪畫の色刷、寫眞等を見せて、鑑賞及び繪畫の常識を養ふ様にする。
 - 九 現在日本の畫界の現状の如きも話してやりたい。

問九八 高ニの指導要領につきお教へ下さい。

答

高一二は尋五六の延長で、その仕上げでもあるのであるから、重複する部面も多い。それで格別こゝに抜出して多く述べる程のことはありません。それで次に述べてはありますが尋五六の部も参考にして貰ひたいものです。

- 一 人體のスケッチの如きは此の時期頃からが、最も練習せしむるによい様に思はるるから、

是非なさしめたいと思ふ。つまり手腕を手軽く動かし、略筆で幾度も形を描かしめることに依り上手にさせる方法をとるのである。

スケッチの如きは相當に形を正しく描ける様な力がないでは描けない。特に綜合的に見てその主要な線を速く描出し得るやうでないといふと、うまく行かぬのである。であるから、これまで相當素描練習をさせておかねばならないのである。それでないと、突然スケッチをやらせても成功しないのである。

- 二 在來寫生用のモデルは大なるもの許りであつたが、此の頃は細密な描寫も出来る様になるのであるから、昆虫類の如き小さいものの描寫もなきしめて見る。

- 三 圖案の如きは特に手工科と連絡して行ふ。即ち圖畫科で圖案したものを手工科で行つて見るといふ様にさせるのである。

- 四 この頃の筆法などは著しく大人らしくなつて來るのであるから、圖案指導などに於て繊細な所まで注意して描ける様になさしめたいものである。

- 五 畫の見方につき指導する。特に近來の新しい表現方法などに就いても説明してやる。

- 六 高小國史に表れたる日本畫及び畫家と連關して鑑賞及び繪畫の常識を養ふ様にする。



(童兒四尋) 生寫の達友 圖七第

七 西洋繪畫の色刷、寫眞等を見せて、鑑賞及び繪畫の常識を養ふ様にする。
八 現在日本の畫界の現状の如きもなるべく知らせるがよい。

第五 材料について

問九九 材料とは畫の對象となるものをいふのですか。それとも畫具をいふのですか。

答

鑑賞上に於ける材料といふ意味は鑑賞篇にも述べてあります様にその畫かれてゐる對象——即ち風景とかモデルといふ様な畫となつてゐる題材の中の個々のものを指してゐます。所で圖畫教育上で『題材と材料』といふ言葉がよく出て來ますが、斯る場合無論材料は繪具類とか、鉛筆木炭の様な物質的材料を指します。所が寫生材料といふと普通はモデル類を指して居る様です。ですから兩様に使はれる場合があると見ねばなりません。

第七圖 友達の寫生(尋四兒童作)

これはスケッチ板上の畫用紙(六ツ切)にクレパスで尋四の女兒が寫生したものである。やゝ個性表現に乏しい怨みはあるが、こゝに挿入することにした。(相澤三重子作)

問一〇〇 圖畫用具を各學年別に示して下さい。

答

研究其の他の都合上何時もさうやつてゐるとは限りませぬが、大體次の様に答へることが出来ます。

○尋一——クレヨン、用紙として厚口の西洋判紙を使用せしむるを本體とし、或は厚口のハトロ紙其の他の色畫用紙を用ふることもある。時に墨筆にて描かせることもある。かゝる時は水分を吸収する性質のある西洋紙其の他のものを用ひる。

○尋二——クレヨン、その他、用紙同前、尺度、

○尋三——クレパス類(又はクレヨン)、用紙は畫洋紙の二十九センチ——二十三センチの大きいものを用ひる。即ち油畫のスケッチ板大である。それから別に厚いハトロ紙を同大に切つて使用せしめることにしてゐる。これは畫用紙六ツ切の形を訂正したものになつてゐる。

尺度、三角定規、鉛筆

○尋四——クレパス類(又はクレヨン)用紙同前、

尺度、三角定規、コンパス、鉛筆、

○尋五——鉛筆、水彩用具(なるべくチューブ入を用ひます。)古ハンカチを用意せしめ、これにて毛先の水分を調節せしめる。

尺度、三角定規、コンパス、分度器、墨筆、

○尋六——同前、ペン畫用具

○高一——同前、

ペン畫、油畫、パステル畫等は各學時適宜に織込むものである。

猶私は高一二年兒童には拙著西洋名畫鑑賞讀本(明治圖畫出版株式會社版、金一圓六十錢)を
持たして鑑賞教授をしてゐます。

問一〇一 小學校指導系統案で文部省編輯のものがありますか。

答

これはもう昔の編纂になつてゐるのですが、新定畫帖の教師用がそれにあたりませう。その後數々改定する様な計畫も立てられましたが、中途に挫折したまゝになつてゐます。

問一〇二 一材料二時間以上にわたるものは何年頃からがよいでせうか。

答

尋四の第二学期頃からでせう。それまでは彼等は一般に五十分以上もやると飽きが来る様ですから特別指導の場合の他先づやり得ません。尋四の第二学期頃になると随分綿密になり、一時間では描けなくなるから、是非来週までも畫かしてくれといふ様な希望も出ます。かゝる時にやらせるがよいでせう。それも多くは風景になりませう。静物などの組合はせはその時に崩すのでうまく再び元の通り配置も出来ませんから、一時間内に畫き上げる様になさしめるのです。

尋五以上の男子は毎週二時間あるのですから、先づその二時間を續けてやらせることになりま

す。
以上の他圖案指導の如き場合は何れの學年でも二週に跨る場合も相當あるでせう。またあつてよいわけです。

問一〇三 寫生材料の選定法を伺ひたいものです。

答

静物教材に於ける器物の選定の良否は、その成績の上に於いて重大なる關係を有するものでありますから慎重考慮を要する次第であります。大體私は次の様な條件を考慮して選定して居ります。

- 1 材料を廣くとること。
- 2 我々の家庭生活なり、兒童の生活に直接關係あるものは親しみ易いから、さういふものから選んで来る。
- 3 學校經濟上比較的廉價なものから選んで来る。
- 4 器物の表面に龍の様なもの、山水の如きものの細かく彫刻されたもの、又は細かい繪畫、模様のあるものはなるべく控へ目にする。
- 5 形體上美しいものは繪畫を構成する上に於いて、重大の關係あるものであるから成るべく簡潔にして、美感をそゝるものを相當選ぶこと。

6 色彩の複雑なものは、その部分的にのみ心を奪はれ総合的な描寫をなし難いので、なるべく同一色なものを相當選ぶこと。

7 形體のあまりに小さいインク瓶の如きものは團體指導の場合困るから實際指導に於いて考慮すること。

8 書籍の如きものを寫生せしむるには一人一箇のモデルなら構圖もよく行くが、一組のモデルに數人集まることは構圖を悪くする故、注意する必要があること。

問一〇四 クレヨンはその色の名の示してあるものが、その名稱を正しく腦裡に收めしむる上に於いてよいと思ひますが、如何てせう。さういふクレヨンとしては如何なるものがありますか。

質問の様にクレヨンはその色の名を示してあるのがよいでせう。多くのクレヨン製造所ではその色名を表はすとその名に合致する様な色にせねばならぬ責任があるので普通さうせないのだといふことです。クレヨンの棒の表面に色名を示してあるものは櫻商會から出して

居るカナリヤクレヨンと王様クレヨンです。

問一〇五 クレヨン畫は何年頃まで畫かせてよいものでせうか

これは先づ尋四までであらうと存じます。クレヨンが流行し始めた頃は研究といふ意味から、どの學年にもやらして見ることもよいことであつたが、既に研究された今日としては尋四位まででよいのでありませんか。私の實際やつてゐることをお話しすると、尋一二はクレヨン尋三四はクレパス類、尋五六水彩といふ風です。

問一〇六 クレヨンは白色のよくきくものがない様ですが、何かよいクレヨンはありませんか。

白色のよくきくクレヨンとしてはカナリヤクレヨン及びガリパーククレヨンです。カナリヤクレヨンは大阪櫻商會發賣であり、ガリパーククレヨンは東京池田工業株式會社です。

問一〇七 色数は如何程教へたらよいてせう。

答 尋四までは多くクレヨンなり、クレパス類、尋五以上は水彩を使用せしめることになりませうが、先づその色をあげれば次の様になりませう。

- 白 (ホワイト) 黄 (クロームエロー)
- 橙 (オレンジ) 黄土 (エローカー)
- 茶 (ライトレッド) 朱 (バーミリオン)
- 赤 (カーマイン) 紫 (ヴァイオレット)
- 空 (コバルト) 群青 (ウルトラマリン)
- 青 (プルシアンブルー) 緑 (ヴリヂェン)
- 薄緑 (エメラルドグリーン) 黒 (ブラック)

以上十四色になりますが、児童の持つてゐる繪具には此等の色がすべてあるわけのものではないから何とか各色の名稱をその色に則して知らしめねばなりません。それには此等の色を紙

問一〇八 クレヨン及び水彩の色の圖表を教室に掲げたいのですが、どんな色を示すべきものでせうか。

に出してその下に名を附し之を額縁に入れて教室に掲げておき自然的にその名を知らしめ、且日常の指導に際しその色の名を正しく呼ばしめねばなりません。

答 色の圖表を教室に掲げ、彼等に色彩觀念を正しくすることは大切なことです。これは前項を御覽あればよいでせう。

問一〇九 色彩の名稱は洋名にすべきでせうか。日本名にすべきでせうか。

答 尋四位までは日本名にすべきものでせう。尋五以上は洋名(英名)をも教へて行きたいものです。然し尋一から和洋二者の名稱を教へて行くか、或は洋名を先に教へ、それから尋三あたりから和名をも教へる様にするのも一方法です。兎に角名稱をしつかり知らしめ、且その

名を實際使用させることが大切です。各兒童が色の名稱も知らずに使つてゐる様ではいけません。

問一一〇 色彩教育は何年頃から始めたらよいでせうか。

答 色彩教育は尋一から始めた方がよいでせう。さうしないと、彼等の持つ色彩感覚を鋭敏ならしめることは出来ません。猶詳細のことは「色彩教授の系統をお示し下さい」の項

を御参照ありたい。

問一一一 寫生的描寫指導は何年にやりますか。

答 これは尋一及び尋二の第二學期までやります。猶その内容のことに就いては「寫生的描寫指導といふのはどんなことをいふのですか」の項を御参照下さい。

問一一二 ペン畫は指導なさいますか。

答 ペン畫は兒童に鉛筆畫の描出を十分慣れさせたものであれば出来るものです。つまり素描の力が不足してゐるとペン畫は畫けません。五年又は六年頃に至れば描けます。それで私は六年第一學期になつて二回描かせることにしてゐます。

問一一三 そのモデルに依りその用紙を縦横何れに使用すべきかの決定は指導者がなすべきものでせうか。

答 私は兒童にさせてゐます。モデルに依り、縦横何れに紙を向けたらよいか迷ふ様な場合はこちらより誰君は如何するつもりか。……など四五人のものに問ひ答へさせて、皆の参考となさしめてから、自由に考へさせてやらせるといふ様にしてゐます。

問一一四 鉛筆と木炭とクレヨンと併用することは悪いでせうか。

答 ある感じを出すためには併用しても差支ないと思ひます。併用することに依つて各々の特徴を發揮せしめ得て至極面白いと思ひます。この間の様でなく、クレヨンと墨とを併

用するも至極面白く行くものです。

問一一五 クレヨンペーパーは何がよいのですか。

答

此の間はクレヨンペーパーといふものが多く商店に賣つてあるが、その中でどの印のものが、よいかといふ意味か、或はクレヨン畫に使用するペーパー用紙は何がよいかといふ意味なのでせうか。何れでせう。何れにしてもクレヨンは堅い紙よりはあまりルーラーでしめでない柔かい紙の方がよいので、私は畫用紙を選定する場合さういふ條件で選んでゐます。猶考までに申しますと、尋一二の兒童に用ゐるものは厚い西洋紙を用ひさしてゐます。これは或は地方で求められぬか知れませんが、私は紙の間屋から一々金三圓五十錢乃至金四圓位でとつて使はせてゐます、經濟的なので至極よいかと思ひます。それから尋三四あたりのクレヨン畫、又はクレバス畫にハトロン紙の厚い紙を西洋判紙大位に切つて使はせることは價が廉くて然もよい結果を齎らす様です。

問一一六 水彩畫用紙の小學校向のものを示して下さい。

答

水彩畫用紙は色々のものを研究して見ましたが、小學校向のものとしては、第一に水分をちよつと吸収する様な感じのものを照準としてゐます。それで畫用紙の中、ルーラーで強くしめたものは堅くて水を反潑する性質を帯びてゐますから、これは避ける様にします。即ち水を比較的吸収する性質のものはどちらかといふと、價の安いものの中にある様です。私としては目下の所比較的薄い畫用紙にしてゐます。所謂木炭紙の様なものには使はせません。

問一一七 畫板には何か發賣されてゐるものがありますか。

答

地方に依つてはベニヤ板を畫板に使つてゐる所もあり、またブロックを使つてゐるので畫板を要せぬ所もあります。畫板として發賣してあるものに廣島市國泰寺町森本通二六九谷川畫板製作所のヴィーナス畫板があります。これはセント八ツ切用金二十五錢、木炭四ツ切用金

三十五銭、畫用紙四ツ切用金四十銭です。

問一一八 テープ畫は圖畫ですか、手工ですか。若し圖畫ならば何年頃から利用したらよいでせう。

答 テープ畫の平面に表はしたものは矢張圖畫と見ることが出来ます。然し尋一二の程度の兒童のやつたものは、圖畫といふより手工といふ方が寧ろよいでせう。それで圖畫の領分としてやるならば尋三又は尋四以上でやらせるがよいでせう。

問一一九 教科書を使用させるのとさせないのと、どちらがよいでせうか。

答 新定畫帖の特長は用器畫の教材配列が比較的よくいつてゐること、透視畫及び陰影法の説明など入れてある所にあります。それですからこれを各學年に落ちなくやり得れば大體使用せしめなくてもよく行きませう。尤も私としては用器畫、透視畫、陰影畫の指導に就いて

は別に私案があります。

こゝで注意して貰はねばならんことは教科書を使用せないならせないでよいから、各自に圖畫の配當案を持つてゐるのでなければならんことです。それもなくて其の時ばかりにやるのは教育者としては無責任の話です。

ですから、圖畫教育の上にしつかりした定見のない方は先づ大體に於いて畫帖を使用すべきものでせう。

問一二〇 遠足を寫生指導に利用することに就いての御高見を承りたいものです。

答 私は毎週一時間位宛寫生せしめてゐたのでは、兒童の大作や、力作を描出せしめることは不可能であると思つてゐますので、お話の様に是非年三回位は寫生描寫のための遠足をなさしめたいと思ひます。これには四月一回、六月一回、十一月一回といふ様に豫定し各學年に應じ行先を調査し、その里程、畫になりさうな場所を書きこんだ表を作つて計畫的にやら

れたらよいと思ひます。
尤も尋一二などは始め寫生も出来まいから、單にその土地に行つて畫を指導するといふ風に考へてもよいでせう。

問一二一 比較的金を使用しないで圖案の参考品を蒐集するとせばどんなものを集めたらよいでせう。

答

我々の日常眼に觸れるもので随分面白い圖案のものが澤山あるのですから、さうしたものを各兒に蒐集せしめ、或は指導者がして参考とさせることは大切なことと考へます。それで先づ次の様なものが参考になりませう。

- 1 各種の包紙、小箱、マッチ箱のレツテル
- 2 美術的なポスター類
- 3 新聞紙にある挿繪、廣告畫、圖案文字
- 4 畫家、名士の年賀狀類

5 古雜誌のカット類

6 子供のお伽話、童話集等の本の上表紙類

問一二二 圖畫教授用に常に必要な兒童の参考掛圖としてはどんなものを用意したらよいでせうか。

答

數へれば色々あるが、先づ次の様なものを常に教室に掲げておきたいものです。

- 1 色の標準色と名稱を記したもの（日本名・英名）
- 2 靜物と、風景の透視畫法を説明したもの、
- 3 陰影法を示したもの、
- 4 靜物に於ける種々の構圖を示したもの。その中には構圖の悪い例もあるとよいと思ふ。
- 5 各種の形の間違つた形の描き方、正しい描き方などを示したもの、
- 6 日本畫の用具や、油畫の用具を畫に示したもの、

問一二三 兒童に持たせる鑑賞畫集の適切なものをお示し下さい。

三省堂から出てゐる新撰小學圖畫及び小學參考圖畫の如きがよいでせう。或は次項の質問の如き畫集と共に圖畫室に備へておくもよいと思ひます。

問一二四 兒童に見せる水彩畫の参考としてはどんなものが發賣されてゐますか。

答 次の様なものでせう。

○兒童藝術叢書第二篇水彩の部（定價金四圓五拾錢）

發賣所 名古屋市西區志摩五九 深田圖案研究所

○大禮記念全國兒童模範作品集（高等科の部及び尋常科五六學年の部）高等科金一圓八十錢、尋常五六金貳圓參拾錢

問一二五 兒童に見せるクレヨン畫クレパス畫の参考としてはどんなものがありますか。

發賣所 東京市麹町區大手町一ノ一 三省堂
前項は大正時代のもので古いものですが、後者は繪は少し小さいが、數が多く價も廉いと思ひます。よい参考になりませう。

答 クレヨン畫の参考といつてもその畫がクレヨンでもよく、また油畫でもよいかと思ひます。兒童のクレヨン畫としては名古屋市西區志摩町五九深田研究所より發賣されてゐる兒童藝術自由畫帖（クレヨン畫）があります。（定價金三圓八十錢）次に東京京橋區木挽町一丁目十一大文堂から出た全國學生畫帖といふのには墨畫、水彩、クレヨン畫等色々這入つてゐるが、これもよい参考になります。寶文館から出て居る鑑賞畫選は油畫が主ですが、これは水彩よりはクレヨン、クレパス、パステル、油畫などに向きませう特價金四圓だつたかと思ひます。

問一二六 モデル臺は高低自由になるのがよいてせうか。或はさうしなくてもよいてせうか。普通の高さはどの位が適當てせう。

答 私の所で静物を描く場合、モデル臺を高低することは全然ありません。尋二でモデル臺を兒童の眼の高さ位にしてその上にモデルをあげて描かせることがあるが、これは教室の教卓を用ひるのです。それから尋五六以上でよく床上に廣い白紙をひいてその上に胡瓜、茄子を配置して比較的斜め上から見て描かせることもありませう。即ちモデル臺の高さはその中間になるのです。モデル臺の丁度よい高さは四十八センチ位がよいてせう。高くても五十四センチ位までです。モデル臺の高いのは一般に器物が平凡な形に見えていけません。

問一二七 尋一二は普通教室でやらすがよいてせうか。或は圖畫室でやらすがよいてせうか。

答 私の實際指導を申述べますと尋一二は普通教室を使用してゐます。それから尋一二の寫生指導は何うするかといふ疑問が起るでせうが、尋一二で指導するものは多く思想畫と寫生的描寫指導と、寫生指導です。寫生的描寫指導は圖畫室にある様なモデル臺は全く要しません。寫生指導は尋二の第三學期頃にやりますが、それは兒童の眼の高さのモデル臺二箇を使用します。モデル臺といつても教卓を使用すると丁度よいのです。尋一二の兒童を圖畫室に連れて行つてその美の雰圍氣に觸れることは結構であるが、机の配置は尋三以上と同様には行かない。寧ろ普通教室の机の並べ方の方が適當なので、大體圖畫室は使用しないことにしてゐます。

問一二八 各自の姓名は紙の裏面に書かすべきものでせうか。

答 よく兒童の畫はその裏に名が書いてありますが、私は矢張名は表に書かすべきであると考えます。即ち姓名をその表面に畫くのもその一部を構成せしむるものだと考へさせる上に於いて大切なことでもあります。

問一二九 クレヨンとしてはどんなものがよいてせうか。

クレヨンとして既に定評あるものは王様クレヨン、第一クレヨン、サクラクレヨン、ま
るクレヨン、たつのクレヨン等でありますが、ガリバークレヨンといふのが近頃グツ

と品質に於いて頭を擡げて來ました。それは近頃十六色といふのも出來たさうであります。元
來このクレヨンの特長とする所は十色で八色と同値とし、その品質を吟味した所にあるといふの
です。即ち普通のクヨレンは六〇%が顔料で四〇%が臘分といふことになつてゐるが、ガリバーク
レヨンは、六〇%が顔料で四〇%がメデアム（媒介物）であることは同じい。然しその中臘分を
その中の一五%とし、他を適宜な藥品を用ひてゐるので他の模造を許さぬと稱してゐます。猶他
に十六色も出來て居り、製造所は東京池田化學株式會社です。

それから一つ大阪櫻商會からカナリヤクレヨンといふのが出る様になりました。同商會の佐々
木氏は研究なら何處までも他社にひけを見せぬといふ人ですから、品も申分ありません。白色の
効果も申分ありません。こゝでは八色入十五錢、十二色入三十錢、十六色入四十錢です。特に私

の氣に入つた所は英名を假名で大きく入れ日本名を小さく入れてある所にあります。これは色彩
教育の上からは非かうならなければなりません。十二色の日本名として示されたものは黒、紫、
群青、綠、薄綠、白、黃黃土、橙、茶、朱、赤といふ様になつてゐます。

問一三〇 鉛筆はどんなものを使はしたらよいてせう。

その鉛筆の柔さかはどの位の程度がよいかはその人の畫の好みに依つて違ふのですから
實はこれこれといふべき筋合のものではありませんが、兒童に使用せしめる上から行く
と、III Bの様なあまり柔かいものはいけません。普通II BかI B位がよいてせう。

私の知つてるもので日本鉛筆製造株式會社の黒軸の日本鉛筆二號乃至三號といふのがよい様で
す。價はいつれも一本金三錢です。その中三號が最も柔かい。

指導者として特に専門的に使はるる方はドイツ製の黃軸のフェバー會社II BかI B位がよいて
せう。私はスケッチをするのに用ゐてゐるのは同社製I Bです。他にアメリカ製のヴィーナスII B
位もよい。何れも金十錢乃至金十五錢位。

問一三一 水彩筆はどんなものを使はしたらよいてせう。

答

水彩筆はあまり小さいものは使用せしめたくありません。私の考では八號でも細いと思つてゐます。十號位がよいでせう。私は文房堂製の八號（金二十二錢）乃至十號（金二十五錢）を使はしてゐますが、いづれは十號と十二號いづれかに定めさせたいと思つてゐます。大阪心齋橋の河内洋畫材料店にある學校印八號（金十八錢）十號（金二十二錢）十二號（金二十六錢）も結構です。もつと安いものを希望なら日本畫の隈取筆か、或はなるべく毛の堅い太いのを使はせるに限りません。

廣島市觀音町浦田秀靜社製のサロン畫筆と稱するものはその隈取風のものであるが、なか／＼畫きよいので、一般兒童使用されて居る様です。價は金十錢。

問一三二 消ゴムに就いては何か心得ておくべきことはありますか。

答

消ゴムの中は石の様な堅いもの、それから紙を擦ると無闇に屑の出るのがありますがそれはあまりよくない様です。

ゴム消の表面の黒くなつたものを紙面に持つて行つては紙面が汚損するからかゝる時は一度机上なり他の紙上にて擦り、その汚れを落してから使用させねばなりません。その使用法は左右又は上下に強く紙にあてて行きも歸りも同様に擦る時は紙面に皺を作るから必らずある一方よりのみ力を入れて擦つては一度紙面より離し、また元の位置に復して擦るといふ様にするのであります。

問一三三 クレパス畫の上に線を筆で入れてあるのがありますが、あれは如何すれば描けるのでせうか。

答

これはクレパスの細かいのを集めておいて色別けとしておき、出来るだけ小刀で小さくし、之を乳鉢に入れて石油を加へ一夜漬けをしておきます。そして翌日乳棒でグル／＼廻し結局おつゆの油繪具を作るのです。斯うして練白粉とか、インク瓶の様なものに分けておき

之を硝子板の上に出して面相筆につけて畫きます。その使つてる色と別な色を使用する時は別にインク瓶に石油を入れておいて之に筆を浸し、新聞紙なり、布切で拭ふて使ふのです。

問一三四 木版のクレパス刷りといふのはどんなことをするのですか。

答 木版は矢張普通の木版の様に浮かせて彫るのです。その上にクレパスを左上方から塗り始める。勿論その部その部に依り色を變へて塗つて行つてよいのです。塗り落ちのない様に一應見渡し重色する所はする。斯うして揮發油を筆につけてその上に塗り、その上に日本紙をあげ、更に新聞紙を小さく切つたものを擧げてバレンで刷るがよろしいのです。

問一三五 クレヨン・クレパス類の持ち方をお知らせ下さい。

答 クレヨン類は普通拇指、食指及び中指にてなるべく下方を持たしめるがよい。それから姿勢としては頭を前にあまり下げぬ様にさせねばならない。

問一三六 水彩筆の持ち方をお知らせ下さい。

答 水彩の筆は兎角細字でも書く時の様に下方を持ち勝ちであります。それでは調子のあつる大きい伸びくした畫は出来ませんから、なるべく上方を持つて描く様にさせねばなりません。またその姿勢も上體を起して右手を伸ばして畫く様に指導するのです。

問一三七 圖畫室の設備には如何なるものが必要でせうか。

答 これに就いては次の質問に詳細に答へてゐますから、同項を御覽下さい。

問一三八 普通教室を圖畫教室とする設備をお教へ下さい。

答 普通教室は大抵兩方から光線が這入る様になつてゐようと思ひます。兒童に對しては學年の進むにつれて光線の指導などをせねばならないこととなりますので、自然と片光線

にせねばならないこととなります。それで一方の窓を塞ぐに足る黒幕を作っておく必要がありません。

實を申すと私の學校のものも普通教室を圖書室にしてあるので兩方より光線が這入る様になつてゐますから、教室の真中に高さ六尺位の幕が二ヶ所に張られてあります。

これは光線を片光線にするにも役立つものであり、また背景ともなるものです。

寫生臺——これは高低自在になる必要はありません。なるべく低い方が便利でせう。私は四十八センチ高さを適當と認めます。

背景用屏風——普通寫生臺の上に小さい背景用の屏風を立てますが、先づそれで結構です。然しそれは私としてはあまり作り過ぎる感があるので嫌ひですから、高さ六尺位の動かぬバックを作つて居ります。

額——兒童の優秀作品を入れる額を二三十枚は欲しいものです。最もよく利用されるものは油畫のスケッチ板が這入る位の大きいものです。堅牢なものがよいでせう。

靜物寫生材料の棚——これも二箇位は欲しいものです。これに收める靜物材料に就いては別項に示してあります。

色彩圖——クレヨン、水彩油畫等の色圖を教室に掲げておき、彼等に色彩の常識を授けるは勿論その感覺を洗練してやります。猶別項にある参考掛圖としてはどんなものが必要かの項を参考ありたい。

名畫——日本及び西洋の名畫を掲げておいてその鑑賞に資することにしませう。その材料は鑑賞教育篇を御覽下さい。

描畫參考畫集——斯ういふ畫集（印刷物其他）があつて常に彼等の美意識を豊富にしてやることは大切なことです。

兒童畫帖類——三省堂から出てゐる新撰小學圖畫と小學參考圖畫とあります。

クレヨン及び水彩の色表圖——この外クレパス類油畫等の色の圖表でもあつたら申分ない。その多數は『色数は如何程教へたらよいでせうか』の項を御覽ありたい。

靜物材料——これは別項に記してあるからそれを参照ありたい。

寫眞——その指導者が油畫具の一切を持ち、時々寫生にも出かけ、寫生の實況を見せるなら格別、一般の兒童はさういふ有様はあまり見ないのであるから、畫架を立て三脚に倚り油畫の寫生をして居る様な寫眞や、東京の美術館の寫眞位は掲げたいものと思ひます。

壁面——黑板のある方とその反対側の方は一面が壁面になつて居る所が多いだらうと思ふが、なるべくさういふ壁面に額縁を掲げることの出来る様二段位に棧でも打つて置くとよいと思ふ。

その壁面にあたる所があまり感じがよくない様であれば、五センチ角位のたるきを三ヶ所に立てこれに大巾の新モス（茶、縁、薄鼠等）の地味なものを三段位に張つておけば全く變つた様な感じになるといふものです。布張りは油畫のカンバスに用ひる平頭の釘を用ひるがよい。

畫板——主として野外寫生用として用ひられます。これは厚いボール紙を切つてこれにハトロ紙を張り、一隅に紐を通す穴を作つたものを四五十枚學校で用意しておくも結構でせう。或は既に出来て發賣してあるものを買つて備へるなり、朴板で作らしておくもよい。若しブロックの一面にボール紙のあててあるものを全兒童に用ひますのであれば大體その心配は無要なわけです。

筆洗——教室にブリキで作つた筆洗があれば最もよろしい。もつと理想的にいふならば水筒に筆洗のついたものがあれば此の上ありません。

三脚又は腰掛——三脚はどちらかといふと上學年用です。それで厚さ二センチ、大いさ十五センチ廿一センチ位の板の裏に棧の二本も打つたものを四五十用意しておき、野外寫生にそれを持つて行かせれば都合がよいでせう。

畫架——これは尋五以上の水彩及び油畫指導に用いますがその用意も考へておきませう。

問一三九 地方で博覽會をやる場合、他から優秀兒童畫を借りたいものですが、何か簡単に貸してくれる所はありませんか。

答 クレヨン、クレパス、水彩と三種の貸出用のものは未だ耳にしません。クレパス畫だけなら、大阪市東成區森町十五番地櫻商會で貸してくれませう。こゝでは毎年クレパス畫の募集をして來ましたから、随分よいのがあります。昭和五年度は更に水彩の方の募集もしますから、それも聽ては貸し出す様になりませう。

問一四〇 圖畫を研究するに必要な参考書を示して下さい。

答 これは東京市小石川區林町六十三番地美術研究社から出て居る新圖畫講座がよいでせう。これには日本畫洋畫何れも含んでゐます。全十二卷毎月一冊一ヶ年完結で一ヶ月金

一圓六十錢を要します。

問一四一 水彩畫研究の参考書としてはどんなのがありますか。

答

博文館から出て居る赤城泰舒著『水繪の手ほどき』といふ本があります。定價金貳圓です。親切に色々のことが書いてあります。これと略同内容のもので後藤工志著『水繪の技法』といふ金一圓八十錢の本があります。アルスから出てゐます。

日本美術學院から出てゐる『我が水彩』といふ石井柏亭氏著は有名な本です。前者よりは説述法がやゝ難しいが知れないが参考になります。

問一四二 油繪の研究としてはどんな本がよいてせう。

答

他に澤山ありますが、新しい本としては川島理一郎氏著『最新油繪の描き方』といふ中央美術社發行定價金二圓八十錢といふ本があります。よい本です。

鍋井克之氏著『自由な油繪の學び方』といふ聚英閣から出てゐる本があります。大正十年發行です。書店にはもうないでせうが、これもよい本です。

問一四三 鑑賞の實際を書いた兒童に讀まれる様な本はありませんか。

答

それは『西洋名畫鑑賞讀本』といふ金一圓六十錢の拙著があります。これは東京京橋區入舟町十三明治圖書株式會社發行です。三色版十四枚入總振假名付きです。

問一四四 圖畫の教授上の参考書はありませんか。

答

これは東京市神田區表猿樂町南光社から出て居る「尋一の圖畫指導」を始めとして各學年全六冊出てゐますから、それを御覽下さい。これも拙著です。

第六 方法について

問一四五 新教育より見た圖畫の指導は如何にすべきでせうか。

答

これも大きい問題であります。次の様に簡條書にお答へしませう。

一 圖畫教育を純粹の美術教育といふ立場から見ると、藝術價值のある畫を描かす様に努力することも一方法であるが、一面に於いてはなるべく實用に役立つ方面を豫定する圖案教育といふ様な方面にも亘る必要がある。

二 圖畫科で考案したことは一面手工科で實際作らして見る。描かして見るといふことが必要である。

三 指導者なくしても自分の畫の反省が出来る様に彼等の立場をしつかり作らしてやるがよ

- い。
- 四 尠くも美術に關する眼界を廣くしてやらねばならぬ。
 - 五 日本畫に對する理解を深からしめる。特に高等科に於いては國史料に於ける美術材料と密接な關係あらしめる。
 - 六 西洋畫に對する理解を與へる。
 - 七 高い趣味の持主たらしめる。
 - 八 簡單な説明圖も描ける様にする。
 - 九 在來の教育は技能の優れたもののみの教育であつたが、これからは中等以下のものも喜んで趣味を持つ様な風にせねばならない。
 - 一〇 畫を見る態度を養はねばならない。
 - 一一 兒童の心理傾向に即した描出たらしめねばならぬ。

問一四六 個性を伸暢せしめる圖畫指導の方法は如何したらよいものでせうか。

答 自然の外形をその儘描いたのでは面白くない。その畫く兒童の各自の個性が表はれてこそよい畫となるのであります。然し個性を表はす様にといふことは人爲的に求むべきものではなく、いつも自然に生れ出ることを待つより外はないのです。よく若い人達が何か異様な畫風でさへあれば直ちに個性が出て居るとか、氣分が出てゐる様に思ふのは少々考へものです。個性といふものは大なり小なりどんな畫にも出るものです。然しその個性はどんなものでもよいとはいはれない。つまらぬ個性もあり、上品な個性もある。であるからよい個性の持主たらしむべく我々指導者として常に努めねばならぬでせう。

さうするには一面素描を重んじ、明暗、濃淡の見方を教へ、色彩の見方、上品な描出法を教へねばなりません。而して一方には色々畫風の異つた兒童の畫、或は大家の畫を廣く見せ、その多くの描き方の中から自分の行かうと思ふ道を考へさせ、また自分の畫に對しては常に反省させる

様な道をとらしめねばなりません。即ち自分の畫の長所を認識させ、缺點を悟らせるには他の描いた畫と常に比較さして見せる様にせねばなりません。また一面兒童の描いたものを額出ししたり、教室の後方に見られる様にして反省させねばなりません。

猶この問題に就いては『現代繪畫思潮によつて指導せんとするにはどんな順序と方法があるか』とか色彩の描出指導に關する質問の項其の他を御参照ありたい。

問一四七 現代の繪畫思潮によつて指導せんとすれば如何なる順序如何なる方法があるものでせうか。

如何にもこれは大きな問題で簡単に述べられません。敢へて一言に申せば斯ういふ大きな問題はこの書を全部読んで戴くより他はあるまいと思ひます。

然し折角の間ですから、簡単に申しませう。

低學年の兒童であれば彼等の描寫發達程度（これは別項参照）をよく了解し、彼等にあまり無理行かぬ程度で指導し、彼等の特質を遺憾なく發揮させます。そして特にその線の描出は低學年

兒童のよくなす所であるから、線の描き方、色彩の描き方など彼等の出來として精一杯の描出力を發揮せしめねばなりません。

それから高學年になるに従つて調子の出し方、單純化の呼吸、色彩の個性的表現等を指導せねばなりません。

然し一面から考へると彼等に對しては一面これまで言ひ出されてゐる素描の教養を施すといふことも考へねばならぬことです。さうした基礎づけの方の指導も高學年になつたら考へて其の上に現代の繪畫思潮を織り込ませるといふことでなければなりません。

それから教師の立場としては特に色々な描法でやつた兒童畫を用意して彼等に見せ、鑑賞させ、その特質を認識させ、且その指導する兒童畫の批評をなす場合は極めて普遍的に各箇の特質を認めてやるといふのでなければなりません。そして各人を更に活躍進展せしめるためには、

『君の描法をもつと深めるにはこの畫が参考にならうから、その畫の長所を學んだらよからう。』といふ様に夫々に適した參考畫を見せるといふ様にすることがよいと思ひます。

猶詳細のことは調子の出し方のこと、單純化のこと、色彩の個性表現等のことは各別の質問があるので一々その項で答へてゐますからそれを是非参照ありたいと思ひます。

問一四八 寫生法にはどんな順序がありますか。

それには風景と静物、人物、花卉の様なものとは自ら違ひます。

風景があればどんな位置から描いたらよいかといふことが先づ初めに考へられます。またその位置を定めると同時に構圖のことも定められるわけです。即ちどんな風に仕切つたがよいかといふことを問題とするわけです。斯くして大體の線描きをするのです。

そして彩描にとりかゝります。

彩描に於いては濃淡、明暗などを見、全體の色の調子をつけて行きます。水彩などであれば材料の関係上空を始めに描いたらよいわけでせう。

而して畫面は一部より仕上げて行かずに、全體の畫面が漸次に出來上る様でなければなりません。

静物、人物、花卉の如きものはそのモデルの組立や配置を考へます。特に静物の如きものはその配置につき苦心します。またその配置と同時に光線のことも考へられねばなりません。配置と

いふからには形のことは勿論、色の方面からも、光線の方面からも考へられねばならぬのです。

斯くしてその畫者の描く位置をしつかり定めて——尤も配置の際同時に考へられる問題ではあります——構圖にとりかかります。描いて見て思はしく行かないでその配置を途中で幾分變へることもあります。描いて見て、よいと定まつたら、彩描にとりかゝります。その際の心得は風景の場合と同様です。

問一四九 調子を理解させるには如何なる取扱をなすべきでせうか。

答

私は先づ此の間の調子といふ意味から詮議だてて行きたいと思ひます。調子といふ言葉をブリュニー（英語）といふ様になつたものである。この調子といふ言葉をもつとわかり易くいへば濃淡とか明暗の調子といふ意味になります。

それですから此の畫は調子が狂つてゐるといへば、それを総合的に見た時濃淡明暗の調子の統一のないことをいふのであります。

御承知の様自然の明暗の度は限りない微妙な幾段もの差を作つてゐるでせうが、然しそれを我々の持つてゐる繪具でその差をそのまま表はして行くといふことも出来ぬものであるから、自然と最も明るい部から暗い部まで幾段かに省略して行くことになる。例へば自然は若し最も明るい部から暗い部まで百の段階あつたとしたら、我々はそれを皆その畫に表はすことは面白味のないものであるから、我々はそれを十位にわけて廣く描出するとか、或は全畫面を比較的暗くするとか明るくするとか、或は暗い方を引下げ、弱い方を引上げて描寫する——即ち調子を弱めて描くことも出来るのであります。彼の壁畫などは人に壁面といふことを思はしめなくてはならぬから、明暗の度合も自然狭められねばならないし、額面にする畫では自然を相當眼を惹く様に表はさしめ様といふのであるから明暗の度合が相當差ある様にする——即ち擴げられて差支ないわけであります。

つまり兒童に知らしめることは以上の様なことを話し明暗の度を正しく整へさすことが必要である。

總じて兒童といふものは青赤黄といふ様な色其物に瞞されて自然の色を濃淡明暗といふ方から觀察することに氣付かないものであるから、我々は調子を理解させるためには即ち鉛筆を持たし

て素描をある程度まで指導せねばならぬものであると考へます。

即ち我々は彼等に一面素描をなさしむることに依り、色そのものに瞞されず、明暗の度を見ることの出来るものにさせることが必要なのであります。

而して素描指導に依り明暗濃淡の調子を整ふ様にせしむるためには常に各部を比較し、何處が濃いか、淡いかを見させ、また總合的に見て安らかに見える様になさしめねばならないのであります。それには調子を成るべく大きな簡單な團りに分けることであります。大きなもの、主要なものを握つて細かいことは棄てますのであります。それを多くの慣れないものは兎角細かいもの許りに眼がとられ勝ちであるから注意せねばならぬのです。

多くの眼のない人達は先にも述べた如く單に個々の美しい色にのみ眼を奪はれ勝ちであるが、その色も結局はその裏に明暗の正しい調子を得て居るのでなければ堅實とはならないのです。

以上述べましたことを重複する様であるがもう一度個條書にして見ますと、

- 1 自然の細部を省略し、明暗の大きな調子で見さすためには時々眼を細くして自然を見さすことが必要である。また別の一方法としては左手なり右手なりで筒にしてその穴から覗かすこともよい。

- 2 常に各部明暗の度を比較し濃淡の調子を誤らない様にさせるがよい。
 - 3 その描いた畫を未だ出来上らぬ中に二三間の距離から眺めその缺陷を見出させ更に訂正させる様にするがよい。
 - 4 自然を眼を細くして見る許りでなく、自分の描いた畫もさういふ風に見させることもよいことである。
 - 5 自然の明暗濃淡の調子をよく了解せしむる上に於いて鉛筆又は其の他の材料で素描をやらせる必要がある。勿論少々素描をやらせたからとて、その次に描く色彩を用ひる畫はすべて調子のある畫を描き得る様になるとは斷言出来ないが、素描をやらせることに依り漸次調子といふことの理解も出来る様になるのである。
 - 6 自然の細部を省略し、大きな簡単な團りに描出せしめるには一面相當大きな紙面に描かせることも必要である。
- 以上の様になります。

問一五〇 畫面上に氣分を表現させる方法を伺ひたいものです。

答

畫面に氣分を表現させる方法といふても、それには先づ畫面に氣分を表はすといふことは如何いふことか、氣分を表はしてゐる面とはどんな畫か指導者からよく承知してゐて貰はねばならぬと思ひます。

我々としては即ち描くものが兒童である以上は、兒童の描畫發達程度をよく承知して、大人らしい畫といふよりはその程度の子供らしい畫を見抜く様でありたいと思ひます。それでない子供畫といふものを眞に伸ばすといふ様には行かぬでせう。

それから兒童の側から見ると彼等の發達程度に相應した兒童のよい畫を澤山常に見せて貰ふ様にして貰ひたいものです。指導者は兒童達が氣分を表はした畫を多少なり描いてもそれを認めてもくれず、大人の畫を下手にもぢつた様な畫を稱讚許りして居る様では兒童は何時までたつても伸びる筈はありません。兒童の下手な原因はその組の先生の鑑賞眼が劣等である場合が多い。これが一番圖畫教育上の支障であります。

気分とかもの眞を表はすといふことは物を正確に出すといふことではないその事をよく承知して気分の表れた畫を多く示し、また少しでも兒童の畫にさうしたものがあれば稱讚してやり、皆にもその事を知らせてやるといふ様に努めるより他はありません。即ち我々は彼等の描く中からさういふ畫を見出し、さういふ畫風を増す様に皆に奨めるのです。

問一五一 單純化の呼吸を得さす方法につき伺ひたいものです。

答

我々一般の生活に於ける眼の使用に於いてはすべて細かく細かく見て行く様に訓練づけられてゐるものであるから、この自然を單純化して見るといふ様なことは兎角忘れ勝ちであります。兒童に於いても同様に毎日の授業はすべてが分解であると思はれる程に細かく細かくと見て行く様にさしてあり、頭も緻密になるので高學年になるにつけ單純化して見ることが難しくなる様です。尋常科の低學年中學年頃は幼稚なためにものを單純化して見るが高學年になると観察が緻密になると共に畫面がやゝもすると離れ々々になり勝ちであるから、全體を統一的に且單純化して描出せしめ様ではないかといふ問題になるのであります。それには數々他の質問に

も答へて居る様に、

- 1 眼を細目にしてモデルを見、大きく総合的に見た所を描出せしめる様にすること。
- 2 その描いた畫を二三間離れて見さし、細部は抜きにし、大局に眼をつけ、そこに破調があれば訂正せしめる様にすること。
- 3 單純化した畫の例を數多く見せること。自分でも描いて見せること。
- 4 下圖を描く時などは細部小部から描き始めず、常にその大きな全局を支配する様な線、暗部に着眼し、そこから描いて行く様にさせること。
が必要であると思ひます。

問一五二 素描練習上如何なる點に注意したらよいものでせうか。

答

素描練習としては、先づ

第一にそのモデルを紙面に於けるどんな位置にどの位の大きいさに描くか定めねばなりません。風景としてはその中心になる部のものを紙面のどの位置にどの位の大きいさに畫くかを定め

て描寫にかゝるのです。

第二に形として各部幅の割合、幅と縦との割合など誤らぬ様にさせます。

第三にモチーフをなるべく大きく大體明暗濃淡の調子の描出を誤らぬ様にさせます。

第四に描いた畫はあまりに堅い感じを起させぬ様にするがよいでせう。

第五に物質感を明瞭に描き表はす様にさせねばなりません。例へば布は布らしく柔かに木のものは木らしく堅く出すことが必要です。

第六に自然にある複雑した細かいものはそれを如何に省略して描出せばそのものらしく描けるかを研究することが必要です。

第七に靜物寫生としてはその器物にあまり細かい模様のある様なモデルを描かせないことです。細かい模様のある様なものは兎角その模様にもみ眼が奪はれて総合的な見方から離れ様とする傾きがあるからです。

大體、以上の様であります。これは必らずしも、順序に書いてあるわけでなく、また中には多少重複するものがないでもない。然し色々に言葉を變へてあることに依り少しでも注意して貰ふことが出來様と思ふてゐるわけでありませう。

問一五三 圖畫學習上素描に興味を持たせる良い方法をお知らせ下さい。

答

素描は墨一色でもものの形及び濃淡明暗を描かせる所にあるのですが、兒童に鉛筆一本持たせて素描をやらせて見るにその場合々に於ける目的を示さないといふと、兒童は深味を出すとか、明暗を出すとか、そんなことまで考へてゐないから、結局『もう描くことがない』と言つて遊んでしまつたりすることになります。

それで指導するには紙に描く大きさのこと、紙面に於ける位置のこと、形の描き方を話して描かせます。

斯くして兒童の描寫中は始終机間を廻り、激勵し、暗示し、獎勵し、訂正してやり、描いて見せるのです。

それからモデルの明暗や大體の調子を見るには時々眼を細くして見る様にするといふと知らせる。即ち眼を細くして見ると色のある自然も色を抜きにした明暗的に見えて來るものです。

或は左手を筒にしてその穴から見ることとも一方法であることを告げ、さういふ見方を時々やら

せるのです。これ等のことは自分の畫を見る場合でも矢張やつてもよいものです。

自分の畫が全體出來上つたのでなく、その七八分通りしか出來上らなかつたとしても、その作品を時々遠く離して見させ、その作をその兒童と共に自分も喜んで見、その缺陷を指示し更に一歩深く描かせる様にするのです。

所が在來の指導では兒童が折角描いてもその作品に對し指導者も喜んで見る風もなく、美點や缺點を指示するでもないといふ様な生命のない指導であつた様です。それでは何を描かしても興味を持たすことは出來ないでせう。

問一五四 畫全體を見ないで、部分々々のみ鑑賞する兒童をどう指導しますか。

答

自分の描いてゐる畫であると兎角遠く離れて見ることを怠り勝ちであつたり忘れたりします。ですから常に遠く——即ち二三間離れて見る様に指導者から注意し、また一般兒童の畫を鑑賞させるにしても近くに見る許りでなく、離れて見る様にさせ、またその離れた位置

に居らし指導者も兒童と同じ所にゐて共に見る様にし、そこから批評なり注意なり、或は美點の推奨をなすといふ風でなければなりません。

それからまた額縁に入れて室に飾り眺めさせる時はこれも矢張畫全體を一にして見る様にさせるに役立つ様です。よく指導者は畫を批評したり他の畫を見せる場合、畫の近くで話す様であります。なるべくは兒童と同じ場所から見て話したりする様にすればその話も自然何處か全體的に見た感じをいふ様になります。また言ふたことは兒童にも全體的に見せる様な態度に導くことと思ひます。

それからまた兒童が描いてる時、モデルや各自の畫は時々眼を細くして見る様にさせればよい。そしてその描いた一筆一筆が全體的に如何いふ効果をなしてゐるかといふ様に常に見るのです。

問一五五 物を立體的に表はさしむるには如何なる點に注意したらよいですか。

答

これまでの日本畫は線に重きを置いたために立體的に表はす、物の高低を表はすといふことにはあまり努力しませんでした。

さういふ歴史的關係あるのか如何かは知りませんが、兎に角ものの高低を表はして立體的に表現しやうとする部面は尠なかつた様です。兒童の指導に於いても一時にさういふ部面を描き表はす様に指導出来ませんが、兎に角此の方面に努力せねばなりません。然らば物の高低を表はし立體的に表はすには如何すればよいかといふと光線を一方からうまくそのモデルにあたる様にし、その明暗を描出する様にさせねばなりません。そしてそのモデルの明暗を見分けさせるには眼を細くし光線を少なくして大局を見させればよいのです。よく光澤のある器物などになるとその近くにあるものの反射を受け、暗部に明るい部を寫しますが、これなどは眼を細くして見ると、さう明るく映つて居るわけではないのに、兎角事實以上に明るく描き勝ちです。さうすると立體的に見えなくなり、畫が崩れて見えます。

この明暗といふことに就いて思ひ出したことは彼のレオナルド・ダヴィンチの言葉です。彼の言はこの質問の答とはなりません、その重要性を知る上に於いて多少参考になります。

『畫を描くに最も骨を折るべき仕事は平板な面に物體を浮出させて高低のある所を見せ同時に陰陽光線の具合を明かに見するのが最も主なる所である。若し畫家が必要な物の陰影を附けることをせずして、唯公衆の愛玩を求むるにのみ汲々たるは技術家として最も耻づべき業である。俗人は畫を見て華麗の色を好む。是れ全く高低などの注意がないからである。』

問一五六 陰影、投影の指導はどんな形態のものより進むべきでせうか。

答

これは大人が研究するものなら、或は正方體のものから研究して行きなさいとか何とかなるか知れないが、兒童の指導としては二年の第三學期頃より、寫生の場合々に應じて指導して行きます。決して正立方體から進むとか球形のものから進むとかいふべき筋合のものではありません。然し尋五六に至つたならば、

- 一 立方體
- 二 方柱
- 三 立方體に屬する形
- 四 圓柱
- 五 圓錐
- 六 球

等の理論的説明は掛圖に依り或は同標本に依り一應は兎に角せねばならぬものでせう。

高一二に至つても猶之を漠然と考へてゐるものもあるから、機會ある毎に説明する必

要があると考へます。

此等の理論的説明はするとしても、然し如何なる場合もさういふ様に陰影がついてくれるものでないのであるから、兒童に對してはそのことをよく傳へ、その場合に應じて觀察すべきを話せねばなりません。

特に影などは二重にも三重にもつくことが多いから、場合に應じ考慮させるのです。

問一五七 色彩觀念を明瞭ならしむるにはどんなにすればよいてせう。

答 此れは自然を觀照する方面、繪畫を鑑賞する方面等色々な方面から考へることが出來ます。即ち

第一 に自然の移り變りに注目させねばなりません。春であるなら何處々々に櫻が咲いたとか今迄木葉のなかつた樹木も一齋に薄綠色の葉をつけるとか、或は五月頃になつたら、その樹木の色に注目させ此等の色は夏頃になつたら如何いふ色にならうとか或は六七月になつたら、此の間まで薄綠色になつてゐたのが、もうこんに深綠色になつたといふ様にして自然の變化につき注意

せしめ、且その色彩を畫面に表はさせ様にするのであります。子供はやゝもすると緑のクレヨンならそれ一色で色出さうとする嫌ひがあるが、それでは自然の色の變化綠色の變化等を見抜き且描出することは出來ぬから重色又は混色の指導をせねばなりません。

第二 に尋一二の頃から、既に重色の指導をなす様にせねばなりません。ある人々の中には尋一二は未だ幼稚なのであるからさういふことを教へる必要はない様にいふ人があるが、それは程度問題である。尋一二では矢張その低い容易な程度に於いて指導せねばなりません。クレヨンの色は皆各自の好みに依つて作られてゐるものでもなく、多くは俗な色なのであるから、好みに應じ自然に應じて重色することを各自に研究する様にさせねばなりません。

第三 に靜物の描寫ならばモデルの色彩の方面からも考慮せねばなりません。私は靴とか、帽子の黒いものを殊更に選んで描かせることもある。或は白い器物例へばコーヒーポット・ティーポットの如きもの、それから磁器製の白色の模様のないものを描かせたり、或は布製の赤い着物を着たメリー人形であるとか、其の他靜物として色彩の描出の上から、種々に變つたものを用意する様にします。

第四 に畫因の色彩に就いてよりよく敏感に觀照し描出する様になさしむるために特に二三年

時代の静物寫生時などに色彩の觀方描出方の色々の指導が必要であります。人々の中には色彩といふものは主觀的のものである——指導出來ないものであるといふ様なこと言つて何もこれに就いて述べない人があるが、それは間違つてゐる。勿論兒童が大體に於いてもう色彩の見方なり態度が出來てゐる様であれば、改めていふ必要があるまいが、さうでなければ先づ一應は見方の訓練をなすべきものである。これに就いては特に「こゝは何色で描くかの問を指導者は如何に處置するか伺ひたいものである」といふ質問の項に詳細述べてあるから、同部を参照ありたい。

第五 に高尚な感じの畫といふのはどんなものか、或は毒々しい感じの畫といふのはどんなものか、實際の畫につき教へる様にせねばなりません。畫といふものは生な色、刺戟の強い色同士の交錯は下品になり勝ちであるといふことをよく教へねばならない。

第六 に色彩の寒暖といふ様なことも教へねばなるまい。

第七 に色彩の名稱も學年相應にしつかり教へねばなりません。

第八 に色の透明不透明といふことの知識も授ける。

第九 に自然の色彩をよく觀察しその通り描かすことも必要であるが、またある時は自然の色のみでは如何も下品になり勝であると思ふ時、自由に兒童の考に依り描くこともあつてよいこと

とを知らせねばならない。

第一としては圖畫室などに色の圖表でも掲げて、色彩に對する觀念を明瞭ならしむることも必要である。

問一五八 「こゝは何色で描くか」の問を指導者は如何に處置するか伺ひたい
ものです。

答

私がこの問に對して率直に答へる言葉は斯ういふことです。即ち斯ういふ言葉を發しさせるに至る様に兒童の描寫に無指導であるといふことはいけなないといふことです。私は此のモデルの色彩に就いては話しておく必要のあると思ふものは

『皆さん、この部の色は如何いふ色を塗つたがよいと思ひますか。言ふて御覽。』

といふ風に告げて各兒の考を述べさせます。すると彼等の中にはある色をいふものがある。何色と何色を重色するといふものがある。答はまち／＼であるが、それでよいのです。兒童の言はぬもので何色と何色と重ねて塗るもよいといふ様なものがあればそれも言ふてやる。斯く色々の

ことを耳にした兒童は自分の考に更に今聞いた着色法をも參酌することになるのです。

またある場合はこの部は此の色を塗りなさい。こゝはこの色を塗りなさいといふ様に特に指導することもあります。さうした態度をとらせるのは個性伸長といふ様な上から如何かといふ人もありますが、時々斯うして色々な描出法があるといふことを知らせて、結局は兒童をよりよく伸ばさせる様にすることが大切なのであります。私は特にこの色彩の描出に就いてこゝをこの色で塗つて見て御覽とかいふても、何時でもその色を塗るべきだといふ様に決して指導せず、他に斯うやつてもよいといふ様なことをまた他日述べるといふ様にしてゐます。畢竟これを別な言葉で云へば、斯ういふ色々な塗り方もあるといふことを教へてはまた別の方法を示し、結局色といふものは

『その中の好みの色で全畫面を活々と仕上げればよいのだ』

『色の塗り表はし方に一定の方法といふものはないものだ。自分の畫は自分で色々工夫し表現して仕上げねばならないものだ。』

といふ様に感じさせねばならないのです。こゝまで来れば「こゝは何色で描くか」といふ様な問も自然なることと思ひます。

問一五九 彩色法は初めより濃色使用てよいものでせうか。

答

油畫などでありますと、モチーフの全體を見て、その強い所、大きな線、濃い箇所を見付け出して、大體の調子をつけそれから漸次に出來上る様にします。所がクレヨンなどではありませんと必らずしもさう行け得ない場合もあります。例へば或る部は黒くしたり、黒の線を引いたがよいからといふので初めにそれでやると後にその近くに塗る色が汚れて畫面が一般に美しく仕上げられぬことが多い様です。さういふ時は他の色で描いてゐて漸次仕上げ終りに黒を入れ、畫面を引きしめるといふ風にすればよいのであります。然し一般にさうだからとて、その人の描き方次第でよく行くこともあるのだから一概には申されませんが、私は一般にはクレヨンなどは矢張薄い感じのものからといふことにしてゐますが敢へて強ひません。

水彩の普通のやり方は大體薄い方を先に描かして行き、最後に濃い色で全體の調子をつけるといふ様にしますが、また初めに濃い色でどんく調子づけして一気に仕げるとパツと派手な活き々々した畫に仕上がることが多い。斯様に色々やる方法があるのだから、實際指導に於いては出

來ることなら色々な方法を示してやれば最もよいのであります。

畫道の本道としてはモティーフの濃い所を見つけ出して漸次畫面全體が出来上る様にすべきであり、それが出来る様な人でないと進歩しません。

問一六〇 色盲者を如何に取扱ふべきでせうか。

答 色盲者は全部の色を取違へるものは尠く、多くは緑色と尠色との辨別がつかないといふ位の程度ですが、これは教育の力を以つて訂正は出来るのであるから、その取違へる

所は止むを得ないとしてせめても素描だけはしつかりと指導して行きたいものと考へます。

問一六一 兒童に圖畫を好きにさせるには如何にしたらよいでせうか。

答 兒童は元來畫を描くことは好きなのであります。上手下手に拘はらず好きなものです。それを嫌にさせるといふのは多くの場合、兒童が描いても別にその長所を指摘して褒め

てもやらす、兒童の描寫中指導者は教室の隅で机に向つて何か仕事をしてゐたりして個人指導をせず、更に圖畫の時間を時々他の教材にくりかへたりして居る場合が多いと思ひます。甚しいのになると圖畫が上手になる子供であり、且素質のある子供であるのに圖畫の成績が乙になつてることがある。これは如何したのかと調べて見るに他の學科皆甲で圖畫許り乙なのです。それは全く不思議なのでよく研究して見ると皆甲にするのもその子供を油斷させることになるからまあ圖畫でも乙にしておかういふ風である。それなら採點してある位だから圖畫を毎週教へて來たのかと思ふと、さうではない。指導者の方で圖畫の時間は時々失敬して他の學科などにくりかへて來て熱心に教へてないからまあ乙でもやつておけば力相應である位に考へてつけてあるのだから習ふ方では全く恐縮するわけである。

こんなのは珍しい方でありませうが、一般として好きにさせるには兒童の心理傾向を研究し、これに合する様な指導法をとり、各兒童の畫の長所を見てやり、一面畫の見方を教へ、またモデルの觀察法、描出法の要領を會得せしむればよいでせう。

問一六二 圖畫科に於ける劣等兒童は如何に取扱つたらよいてせうか。

答

私の経験から申しますと、低脳兒でない限り劣等兒童は努めさへすれば尠くも中等兒にはなり得る者であります。而して中等兒になり得ないで劣等兒に留まつてゐるのは其學級に於ける學習態度がすべて燃焼してゐるかたちになつてゐないからであります。劣等兒が中等兒否劣等兒になり得た實際結果から申しますと、彼等は多く『自分は下手なんだ』といふ様な老人の考へに捉はれてうんと馬力をかけて奮進して見る——描いて見せるといふ様な熱に乏しいものが多い様です。それで先づその精氣一杯で描く様に仕向けねばなりません。さうするとやつてゐる中に今までよりは變つた、兎に角熱のこもつた畫が出来ることがあります。指導者はそれを待構へてゐて、さうしたものが出来た時『それ御覽なさい。君はこんなに描ける力があるではありませんか。皆の人達も御覽なさい。何々君は自分から下手の様に思つてゐたがこれはこんなに立派に描きました。これはこゝに張出しておきませう。』などと言つて教室に張出してやると、その機會より一轉して、面目を新たに、ぐんぐん伸びて行く様に思ひます。即ち指導者としては

特に彼等を夫々精一杯精神を充満して描かせることと、その長所美點を見付け出して自身にも知らせ、又皆にも知らせて努力さへすれば描ける様になるものであるといふ事を如實に示してやることです。

問一六三 寫生に際しその時間に仕上げられぬ時の最善の處理法をお伺ひ致します。

答

これは誰も困ることです。私も初めの頃はこんな問題で悩んでゐました。然し今では斯る場合の最善の處理法を考へるといふよりは初めから時間に仕上げる様にといふことを念頭において常に

『時間に間に合はせる様に考へて畫きなさい。』

『そんなに下描きに長く時間をとつては着色は出来ませんもうやめて着色にとりかゝりなさい。』といふことを言つてやり、常に全級を眺めて今全體は程よく進みつゝありや否やといふことを考へてやつてゐます。

それからまた指導者が風景を描かす様な場合、あまり時間のかゝる構圖は描かしめないことです。そして下描きを鉛筆でやる場合、速かにモデルの全體にある大きな線を見付け出させ、それを紙上に表はす様にさせて、大抵の所で下描きを打きつて着色にとりかゝらすといふ風をとるのです。さうせずに兒畫の描くまゝにしておくと自然時間内に描き上げられないといふ様なことになつてしまいます。

尤も尋四の第二學期頃になると随分正確に描きたいといふ様な考から建築物のある風景などは一時間で出来ず、二時間要する様な場合が往々あります。これはものそのつもりで描かして差支へないわけでありませう。

それから水彩の場合紙面の大きさから見れば筆先のあまり小さいものは繪が細かくなり、自然時間が多くなるといふ様なことにもなるから注意せねばならないし、また大きな筆を持つてゐても細かく描かうとしては部分的になり時間に不足を告げるから大きく総合的に見させるといふことが大切です。

問一六四 兒童の寫生指導の際など、指導者も一緒に描いたらよいと思ひますが如何でせう。

答 兒童が寫生をして居る時、指導者も一緒になつて畫くといふことは結構です。時々斯ういふ風にしてその意氣を示し描く態度を養ふ上にも必要でせう。然しどちらかといふと寧ろ常に机間を廻り個別に批評し、注意し、暗示し、また描いて見せたり、訂正してやつたりして常に彼等をして喜んで描寫に熱中する様にさせねばなりません。

問一六五 彼等の描寫中は指導者が批評がましいことを途中で言つたり、手を加へたりするよりは、黙つて見て廻る位がよいのでありませんか。

答 さういふ人もありますね。私としては彼等の個性を一面尊重するが、然し中には悪い癖があつたり、如何してもそれでは悪いと思はれる様な形の場合もあるのですから、矢張

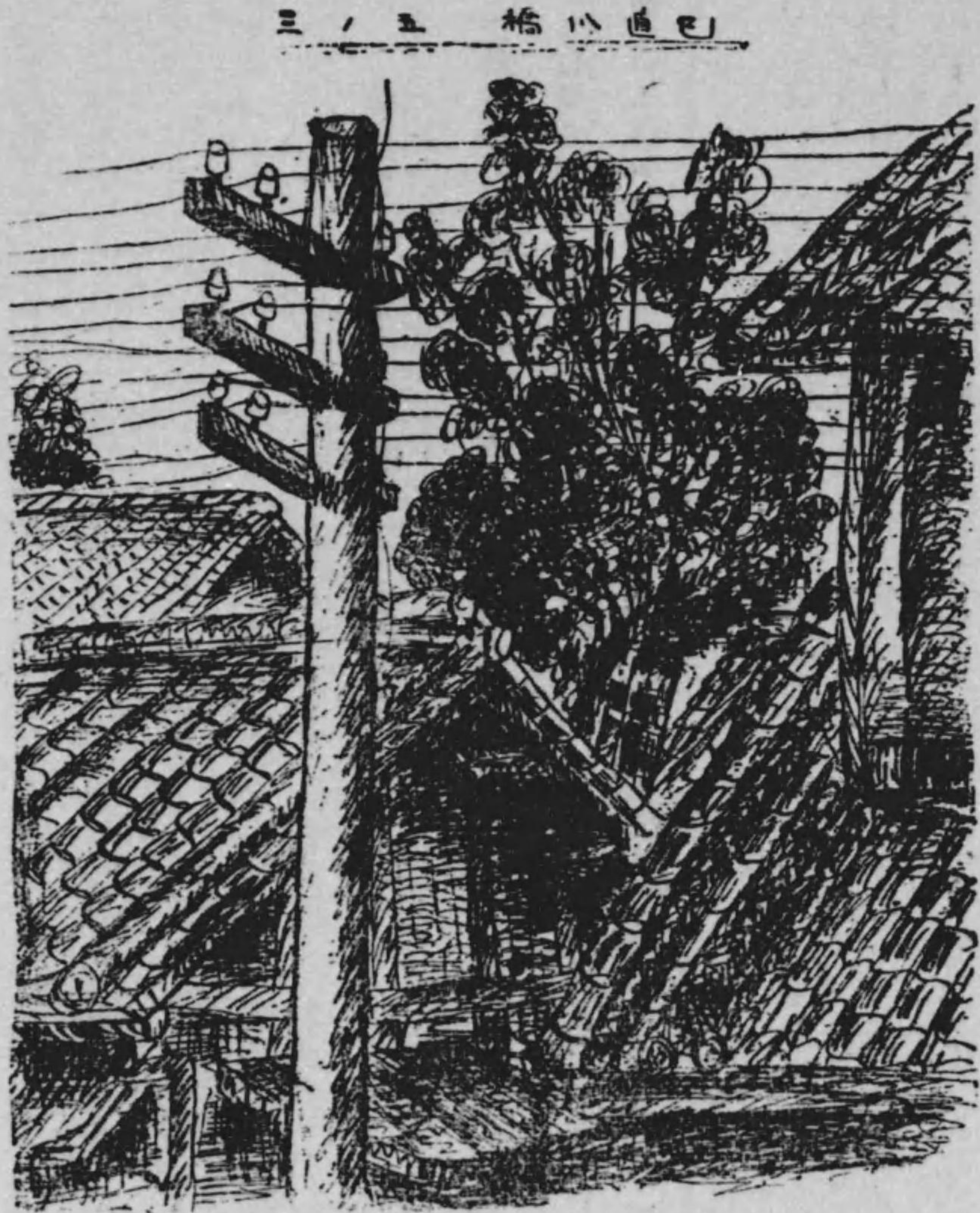
その時々には話す様にしてゐます。然し私はそれで彼等の氣持を害しはせんと思ひます。害する様であれば自分も直ぐに反省し、また一面指導者自身の腕も磨くのですね。

問一六六 授業の終りにはかならず批評會を催さねばならんものでせうか。

答

在來の授業に於いては描寫させる時は相當熱心にやらせてもその仕事の結果に就いては反省するといふことはあまりしませんでした。そんな事でこれからはその仕事の反省をなさしめ、更にその次の研究をして意識的により立派になさしめねばならぬといふので授業の終りには多く批評會を催す様な風になりましたが、上級學年などさう一齋的に仕上げられぬ場合が多いので必らずしもその時間内にやれぬことが多いのです。それで兎に角その仕事の反省をなさしむるといふことは大切なのですから、何等かの形式に於いて、何等かの時を得てやらせるといふのであれば必らずしもその時間内にやるといふ必要はありません。

参考までに私の近頃の指導態度を申上げると、時間の終り許りでなくその七八分通り出來た頃に個別にその作品をその児童と指導者が一緒に離れて見て、その畫を反省させ、更に仕上げを



（畫ンベ） 景風た見らか階二 圖八第
（作童兒五尋）

第八圖 二階から見た風景（ペン畫五兒童作）

これは尋五兒童の描いたペン畫で、紙は少し薄茶色を帯びた木炭紙大
いさは畫用紙九ツ切大である。私は鉛筆畫がたしかに描ける様になると
斯ういふペン畫を描かせることにしてある。（橋爪直巳君作）

何にすべきかを研究させるといふことを、どの學年にも多くやつてゐます。

然し尋一二の兒童の圖畫指導は一般にその時間に餘裕を見出すことが出來ますから、先づ大體に於いて毎時その時間内にやることにするがよいでせう。その方法形式に就いては、別項にも説いてありますが、種々な方法によるがよいと思ひます。

問一六七 低學年の思想畫は如何に指導するがよろしいでせうか。

思想畫は一般に彼等の見たこと、感じたこと、見慣れてゐること、珍しいことや、珍しいもの親しいもの等を畫くのであるから結局次の様なことに注意するがよろしいのです。

一 自分のことやその眼に觸れたものを描かす。

例へば家といふ様な題で描かせるとすると、なるべく自分達の常々見てゐる家、又は自分の家などを思ひ出して描く様にせねばなりません。勿論初めての頃は只家といふものを概念的に描出するのでありますが、さうした態度を漸次矯めて來ねばならぬのです。また遊戯といふ様な題であると自分達の遊んでゐる所、又は自分の近所の子供が遊んでゐる所といふ風に常に自分達の周

團の動きに眼を配りそれを中心として描かせる様にせねばなりません。

二 例へば丁度秋の末にもなつて庭の木の葉が色づいて来たとするればそれに注目さして、その樹木を描かせ猶これより發展して自由に好きなものを附加して描出させるといふ如きこれでありませす。猶提灯行列が昨夜行はれたからそれを描かす。花火があがつたからそれを描かすといふ様に自然の變化や、周圍の變化などにつき十分注意し、さうした場合の催しを描かせる様にするのです。

三 大きな紙面に描かす。

小さな紙面は畫が小さくなり、表現も萎縮して来ていけないから、西洋判紙(厚い紙を用ゐる)位のものに描かせると時間上からも丁度よい様です。それから鉛筆を兒童はよく使ひたがるのですが、之を持たすと各箇の形が矢張小さくなりまた萎縮しますからこれも避けさせねばならない。即ちクレヨンなりクレパス類でどんく書かせる様にせねばなりません。

四 賑かに表現の内容を豊富に描かせる。

想の枯れてゐる兒童、頭の敏活に働かぬ兒童は畫面を見ても寂しく如何にも描き足らぬ感のするものですが、それでは上達しませんから、なるべくそれからそれへと聯關して考へさせ、賑かに活躍してゐる様を描かせ、表現内容を豊富になさしめねばなりません。

五 個別指導を盛んにする。

彼等の描いてゐる間は常に机間を廻り、個別に暗示し、激勵し、表現の不足のものには他の兒童のものを見に行かせて刺戟し、一面各箇の描出内容を見て共に楽しみ、その長所を稱讚するといふ様であつて欲しい。

六 人物を巧みに描きこませる。

思想畫に於いては人物を描き込むことが多い。所が折角人物を描きこんでも正面向きのもの許り描くといふ様な兒童があるから、他の巧みに描いてゐるものを見せ、その人物が如何にもその畫面の中に活躍してゐる様に描出させねばならない。

七 伸びくと描かせる。

よく展覽會などに見る尋一二の思想畫の中にはあまりにこぢんまりしてキチンとしてゐる様なものが多いが、それでは兒童の描出力は萎縮し、子供らしきもの何もないものになるから、子供は子供らしく大膽に大きく伸々と畫かせる様にするがよい。

八 出來のよい思想畫を盛んに見せる。

各自各自が自分のもの許り見てゐたのでは進歩しないからなるべく友達の上手に描いた畫を盛んに見せ、その描出の長所をお互ひに攝取する様にさせるとよい。

問一六八 寫生的描寫指導といふのはどんなことをいふのですか。

答

寫生的描寫指導といふのはその兒童に寫生させるには猶少し早いからそれは出来ない。然し寫生をやらせるまでの準備的指導の様なものがあつたらそれを何かやらせておきたいといふ希望は誰にもあるわけです。

即ち私のこの寫生的描寫指導といふのはさういふ立場から生れたもので尋二の第二學期までやります。その指導に際してはそのモデルを矢張用意します。例へば筍、茄子、胡瓜、南瓜、林檎といふ様なものをその場合に應じて適宜持参するのです。そしてそれを左手に持つて皆に示しその形を塗板に畫き示して描寫の要領を會得させるのです。塗板に描くといふても、構圖を指導する上から、その紙の縦横の割合に應じた大きな輪廓を先づ塗板上に描いておいて、その大きさのものなら、どの位の大きさにどの邊にどんな形に描くといふことをよく指導するのです。

色彩ならばどんな色か、觀察せしめ各自に答へさせて塗らしめる。時にはある部には「斯ういふ色を塗りなさい」といふ様に指定することもあるわけです。斯くして寫生の要領を會得させて尋二の第三學期に至り、兒童の眼の高さのモデル臺(教卓使用)にあげたものを寫生させるといふ様にして尋三に至り、始めて圖畫教室で寫生させるといふ風にするのであります。

問一六九 低學年兒童に對し寫生畫を指導する要件としてはどんなことが大切でせう。

答

尋一二の兒童の時代の指導に對する私の意見としては思想畫の指導、寫生的描寫指導を以つて大部分とし、これに大體尋二の第三學期に至り寫生指導をなすといふ様にして居るのであります。然し其の前に於いても寫生の指導が出来ないわけのものではありません。それで此の質問に對しては即ち尋二の第二學期以前に寫生をやらせても出来ないことではないが、多少無理がかかるから若しさうした寫生指導をなすとせば次の考を頭に收めておいて指導をするがよいといふことを前書して述べませう。

一 尋一二の兒童に於ける極初歩の寫生は半ば彼等の記憶畫的描寫の混することは認めてやらねばならない。特に尋一の時代など寫生をやらせるのは無理なのである。であるから寫生をやらせるとある兒童は紙面の一方に樹木一本を寫生してもう寫生するものがないなどいふことがよくある。かゝる時は『それなら、あなた方が其處で遊んでゐる所を描きなさい』などと言つてやることも一つの方法である。

二 自由な初歩の寫生に於いては風景寫生を幾回も續けて課した方がよい。

三 靜物寫生をなす場合など、單一なものを描かすといふよりは少し複雑したものを描かすと案外成功することがある。例へば菊花などであると單一な花一箇あるものを寫生せしむるより、五輪六輪と花のある様なものを描かせたがよい様である。

四 初歩の寫生描寫指導にはある程度まで筆數を多く使はせるがよい。即ち目前のものを出来るだけ多く紙上に描き込ますといふ様な態度をとらせることが必要である。何故さういふかといふと初歩のものは例へば二筆三筆ちよつと描いて『もう描きました』といふて遊んでるといふ様なものが多いからである。即ち紙面一杯に筆數多く目前のものを描くといふ様な態度をとらせることが大切である。

五 所謂整頓し過ぎた畫を描かせるといふよりは、常に氣分を捉へた畫を描く様にさせることが大切である。

六 上達せしむるには寫生を毎週やらせねばならない。畢竟毎週やらせて行く中に寫生らしいものが漸次出來て行くのである。

問一七〇 低學年に寫生材料を取り入れる注意事項を承りたいものです。

大體に於いて「低學年兒童に對し寫生畫を指導する要件としてはどんなことが大切でせうか」の問及び次の項に説明してあるから、こゝでは省略したい。

問一七一 低學年に於いて、始めて靜物寫生の指導をなす上の注意をお示し下さい。

私は尋一二の第三學年頃までは多く思想畫の指導と寫生的描寫指導とをやつてゐます。その寫生的描寫指導といふのは、モデルを示し、そのモデルの描き方を塗板上に描き示

し乍ら、之を模倣させ、更に指導者の説明の下に彩描せしむる方法であります。即ちこの寫生的描寫指導は寫生指導に入る前の準備時代の指導となるわけですが、それも終り愈々寫生指導を第三學期になりするといふことになればまたそれ相應に考慮せなければなりません。

この寫生指導の初めは一般に普通教室を使用したがい様です。教卓の高さは多く兒童の眼の高さでありませうが、その教卓をモデル臺に使つたがい様です。このモデル臺（教卓）は二箇あるとよいのであるか、それは出来ないでせうから、他に椅子なり何なり用意して、左方と右方二ヶ所にモデル臺を用意し、その上にモデルを載せて描かせます。

そのモデルとしては

だるまさん

盆に土瓶、湯呑、茶碗

玩具の犬

花瓶にお花

お三方と鏡餅

花瓶に挿した梅の花

剝製の鳥類

盆栽

籠の蜜柑

籠の林檎

等ありますが、こんなものなら大抵は描けませう。その中で玩具の犬などは形が少しとりにくいでせう。その他のものは彼等の眼の高さの所にあるものであるだけ割合に容易であります。また一面彼等はこれまで、指導者から寫生的描寫指導を受けて來てゐるのであるから、描寫の要領も略々わかつてゐるわけです。それで他の突然寫生をせしめられたのと比して餘程樂であります。

壺

美しい花瓶

然し指導者は何もいはずに描きなさいなどいつて突つ放すのは無理です。矢張その描き方の要領を會得せしめねばなりません。

即ち描かせるとしては紙面に於ける大いさのこと、位置のこと、形のことなど話さねばなりません。

また初歩のものは形をとること許りに時間を多くとられ勝ちであるから、大きな線を描出させるに専念させ、大體の所で鉛筆を使用することは中止さして直ちに彩描にとりかゝらせます。

此の際、どういふ様に重色したらこの何々の部の色が出ようかなど二三名に問ひ、次に自由に描かせます。色彩は何も皆が一様にすることの必要はありません。兒童のいはない重色法で斯う

したがよいと思ふことがあつたら指導者から話してやります。時には此處は斯うなさいと一部は一齊にやらせることもあつてよいでせう。

彼等は一般に描寫にゆつくりして描いてゐるのが普通であるがそれでは間に合はない。時間に限りがあるのであるから、時間内に描く様に何度も、實に何度も注意するのがよいでせう。

そして時にはその作品を二三間離れて見さすことも必要であります。斯くして出来た作品はその作品の見方を指導することが肝要であります。

以上その實際を示して諸賢の参考に供します。

問一七二 低學年に於いて群集人物を描かせる場合の指導は如何にすべきでせうか。

答

低學年の思想畫に於いて人物を描き入れさすことはその畫面を賑かにする上に於いてまた子供らしい描出をなさしめる上に於いて是非必要なことであります。私はお訊ねの様な群集人物といふことでなく、廣義に思想畫の中の人物を上手にさせるには如何したらよいか。

それに就いて話ませう。

尋一の初めの兒童が描く人物畫を見ますに多くは表面に向いたものを描く様なのが多い。また大きなまる、小さなまるを描いて胴と頭とし、これに四本の棒を出して人とするのが普通であります。こんなものでも人物を描きこまない様な畫よりはズツとまします。ですから、先づその態度を褒め次にこんな話をしてやる。

『この人物の描き方はよいが、もつと遊んでる様な様子に描くとか、横向きになつてるのも描くとよいのですがね。描けませんかな。』

『この人物の描き方は簡單ですが、本當に賑かに澤山の人が遊んでゐる様に見えます。』

といふ様な言葉を實際につき色々に話して行くといふ様にし、また話すたびに、人物の描寫のことをもつけ加へて行くといふ様にすることがよい。すれば自然と兒童も人物描寫に就いて注意し従つて上達するものであります。ですから常に彼等の描いた人物を見せて刺戟し獎勵するのであります。

それから尋一の兒童でも第三學期頃になりますと相當立派に描ける様になりますが、人物の大きさを異にすることに依りその遠近をつけることは猶せぬものが多いから、近くの人大きく、

遠くの人小さく描くといふ様なことを注意してやるがよい。

それから背景に家や、塀などのある場合を見るに人物がそれ等のものと比較してあまり小さく描き勝ちであるから、その割合からもつと大きくとか何とか話してやつたらよいでせう。

問一七三 低學年及び中學年に於けるパツクの指導に就いて御意見を承りたいものです。

私は其の畫面に於ける主體たるモデルを除外すると通常は

答

一 モデルの置いてある面と、パツクの二つに分けてゐるが、また場合に依ると

二 全面がモデルの置いてある面のみとなることもあります。

尋一二などでは(一)の如き場合、このモデルを描かし、次にモデルの置いてある面を描かしてゐる中に時間が来てしまふ事が多い様です。それでパツクを描かせぬ事がよくあります。

(二)の如き場合は床上にモデルを置いて比較的上方から見ても描く様な時がさうであるが、さうでない場合でもこれに近い様な感じで描かせることもあるわけでありませう。

總じて私は尋四位まではモデルを描かし、次にそのモデルの置いてある面を描く様にさせ、それが終つても猶餘裕のある場合にパツクを描かせる様にしてゐます。

此の際指導者の方で只「パツクを塗りなさい」などと言つたまゝで、すてゝ居ると、強く亂暴に塗ることがよくある。それでは描いた効果を表はさぬから、さうした結果に陥らぬ様に注意しまたその描出の一方法としては短かいクレヨンを平に紙面に寝かせ手軽く塗るといふ様な風にさせることもあります。

畢竟パツクはその畫を美しく表はす上に於いて大切なものであるから、モデルの邪魔になる様な亂暴な、目立つ描出方をなさしめず、且色彩もあまり派手にならぬ様にと常に注意してゐます。

またモデルの置いてある面及びパツクの色彩指導につき猶具體的に述べて見るとよく實際の場合と關係なくその色を自由に表はして見よと言ふことがあります。それですからモデルの置いてある面が黒褐色の場合であつたとしても、別の色で表はすことがあつてよいわけでありませう。即ち不自然にならぬ範囲内で斯ういふ風にやらせるのです。これは彼等の持つ想像力、空想力を善用して自由にその色彩感を發達せしめ得るでありませう。パツクの色などは要するにそのモデル

を引立たす様にするためにつけるのであるから、そのつもりで指導するのがよいのであります。然し時にはモデルに依りバックなどを塗らしめると反つて不結果に終ることがあるから、斯様な場合には畫かせぬ様にするがよいでせう。

問一七四 中學年以上のバックの指導に就いてお教へ下さい。

バックの指導に學年的順序といふものがあるとは考へられぬが、その問はるゝまゝにその經驗から次に思ひ出したことを述べて見ます。

一 靜物を組立てるには必らずバックとテーブルが就いてゐることになるが、然しバックはそのモデルの置いてある面そのまゝがその代用をなすこともありす。例へば胡瓜とか茄子の寫生の場合の如きは机上にあげて之を離れて描かすと、多くの兒童が一つのモデルに依り描くので構圖があまり横から見ても描くことになり、畫面はよい構圖にならない。そんな場合床上に大きな白紙を擴げてそれに配置し比較的斜め上方から描かせるのである。かゝる時はモデルの置いてある面が一面背景ともなることになりす。

二 モデル臺を教室の眞中に置いて光線が三方から來る室でバックを使用せずに描かして、バックをよい加減に附けさす尋六の授業を見たことがあります。これは非道いと思ひました。尋六で靜物を描かせ、バックをも描出せしむる以上は矢張モデルの後方にバックがあつて、光線も相當考へてある場合を描かせるのでなければ、實感から得たバックの描出法を研究せしめられないことになりす。

三 一般にバックを描く時、そのモデルと離して考へ勝ちであるが、上學年になるに従つてバックはすべてモデルと同様に描きあげて行く様にさせたいものであります。然しそれは尋五六から教へて行つたとしてそれが出来るのは漸く高一二になつてから位か知れませんが、なるべくさういふ様にさして行きたいものです。

四 學校に於ける指導を見るにバックはモスリンやその他のケバくしい布を後方に下げて寫生せしむる人が多いが、我々から見ると布を悪用して居る人が多い様に思ふのです。一般としてはバックはどちらかといふと襖張りになつたものを置く方がよいと思ふのです。そしてその襖もなるべく一般の壁の色に似た地味な色の方がよいと思ふのです。さうした色にするのは襖張りにしてある上に近頃古壁を新しくするのによく用ゐられる水性裝室塗料カセインを塗つたがよいで

せう。これを指導者の方で簡便にやるには泥繪具（圖案繪具）を塗るもよからう。斯ういふことまで考へてやるのはその指導として大切なことであります。

五 それから畫の背景は只色が塗つてさへあればよい様に思ふものがあるがその考は止めさせねばなりません。即ち常にモデルと對照して色彩を考へさせ、背景を描いたことに依り一層奥行深味が出る様になさしめねばなりません。

六 バックはモデルの影に依り明暗の異なる部が出来て来るから、斯うしたことも描き表はされる様になさしめたいと思ひます。

七 バックの色彩が強かつたり、筆跡が元氣よすぎたりしてモデルより強く感ずるのは矢張失敗の畫であるから斯うした方面についても注意したいものです。

八 多くのものはバックは一色で塗つてよいものの様に思ふらしいが、さうすると多く失敗に終るものです。バックでも色々な色が一見使はれてある様であつてよいわけです。色彩の調和といふ上から行くと、モデルに使つてある色が、バックのある所にはちよいと見える位がよいと思ひます。

要するにバックの指導が上學年と下學年に依り著しく異るといふわけでもないから、前項も參

照ありたいと思ひます。

問一七五 低學年の成績物に幾分手を入れてもよろしいてせうか如何てせう。

尋一二の兒童の畫の如きは稚拙味のある中に何ともいはれぬよい所のあるものですが、これに手を入れて斯う畫きなさいあゝ畫きなさいと實際示すべきか如何かといふことが

この問の本旨でありませうが、これは斯々と一様に申されません。手を入れるがよいといふても空や地面の描き方をちよつと示すとか、樹木の畫き方を示すとか、家の描き方を示す、或はある部分にちよつと色を塗つてやるといふ様な部面は、やつてもそれ程に彼等の畫を打壞はすまではならん様であります。人物などを描き込んで示すなどのことになる、反つて感じを傷める場合が多い様です。それで人物の表現のうまく行かぬものにはある場合他の兒童のよく描いてるものを指示してそこに見に行かせるとか、或は前學年兒童のものを一面模寫させるとか、見さすかすればよいでせう。

尋一二の靜物畫——即ち茄子とか胡瓜などを描かす場合、塗板にも幾度も描いて示すが机間を

巡つて居る中にも矢張描いて見せたりする方がよい様です。

尋三あたりの静物、風景畫などにしても、形をとる場合、手を入れてやつたり、口でいふてやつたりせねばなるまいが、着色の場合などあまり手を入れすぎると、児童の純真性を失ひ、子供らしからざる畫となります。展覽會の畫や、學校の大廊下あたりにある畫にはこの子供らしからざる畫を多く見る様ですが、これはお互ひにやめて、もつと子供らしいものを發表したいものであると考へます。

問一七六 低學年指導の場合、その作品が略々出来上つた時どんな風にして反省せしめたらよいてせうか。

答

私は尋一二の静物寫生及び思想畫の描寫指導としては、すべて普通教室を使用してゐるので先づさうした場合には如何するかといふことに就き述べて、この場合の答としませう。

一 一般としては各自の作品を遠く離れて見ることが最も大切なことではありますが、只二三

間離れて見て反省さしただけではつまらぬ。反省せしめて、猶補筆してよくなるものは更に書き加へさしたり、或は訂正さすべきであると思ひます。

それで私はこんな風に指導するが多い。

即ち大方出来上つた頃を見計つて四五人宛各自の作を持たして教壇上に上らせ一列に並んで皆に見させます。指導者も矢張児童側の二三間はなれた後方に居り、児童と一緒にその作を見る。そしてその中によく描いてあるものを見付け出させる。それから中に訂正を要するものがあるわけであるが、それを児童に発見させ或は指導者の方で言つてやる。それだけではその描いた児童によく理解の行かぬ場合が多いから、その訂正補筆さすべき児童の作を指導者が持つてその児童に遠くはなれて見さしてやり、その訂正又は補筆した方がよいことを實際に悟らせるのです。そして直ちにその席に歸らしめて補筆せしめるがよい。

然し中には補筆も出来ず、訂正も出来ないものがあらう。即ちさうしては反つて悪くなる恐れがあるものがあらう。さうしたものは此の場合只その不出来を認める程度でよいと思ふのです。斯様なことを人をかへてはやるのです。すれば大抵三回はやれませう。勿論全部の児童にやらせればよいわけであるが、そんなことは時間が許さぬでせう。

猶別法としてはピンを澤山用意しておいて塗板に貼ることもあるわけですが、それはピン止めする時間に多くとられるのでちよつと困ります。

二 猶指導者側で一應見て廻り、ある共通した缺點を見出し、それを一同に告げて補筆せしめることも一方法であります。此の場合なるべく塗板にその略圖を描き缺點を具體的に述べてやる様にせねばなりません。

三 各自の作品を反省せしめる方法としては其時間内許りでなく、毎日々々がその反省すべき時であるといふ様に考へてもよいのであります。これはその學級を擔任の教師が持つてゐる場合に最もよく出来るわけです。即ち教室の後方の壁間に棧を二段位に打つておき、それに大部分の畫をピン止めしておき、指導者が氣付いた時々一同を集めて、その缺點を發見させ指摘して訂正させるといふ方法をとるのであります。

問一七七 風景寫生指導の實際を御教示下さい。



風景寫生に於いてはある一定區域を指定し、その區域内の寫生ならば如何なる構圖を描くも自由であるといふ様にする場合と、またその場面を指定する場合、即ちあの松の樹木を入れて繪にしなさいとか紅葉したあの樹木を中心として描きなさいといふ様にする場合等の如き課題の指導と自由選題の指導とあるのですが、私は主として前者の課題指導を多く課して居ります。

野外に出して兒童に寫生さして見るに構圖上一般に陥る缺陷は『引き寄せ』の構圖を描くといふことでもあります。それならその『引き寄せ』の構圖とはどんなのをいふのかといふと、自分の眼界に収まつた丈けのものを描かず、そのある一部しか畫きとらないものをいふのである。即ち大體人間の眼界は所謂六十度の範圍と定められて居るのであるが、自然を描く際にはその六十度の視界一ぱいを畫に収めなければならぬといふのではないが、少くともそれに大凡そ近寄つた所を描き込まねばならぬものであります。然るにそのある一部分しか描かないといふことになるとその箇所を紙面に大きく描くことになる。すると自然縮りの悪い間の抜けたものになるのです。

以上の様な『引き寄せ』の構圖を描かさな様にするために指導者は何時も注意せねばなりません。即ち如何したのが『引き寄せの構圖』で悪く、それを如何すればよいかは、時々ある一つ

の場面を示し『あすこを畫きなさい。あの柳の木を中心として附近をも畫き入れて畫になさい』といふ様に指定せねばなりません。兒童が鉛筆を以つて描き始めたなら始終兒童の間を廻り『それはどう。これはかう。』と批評したり、訂正してやつたりせねばなりません。畫は構圖を畫く第一の時にもうその價值が定まるのであるから、よく見てやる。また慣れぬものは鉛筆で強く畫いて紙面に溝が出来るかと思ふ程畫くのがあるからさういふものも常に注意してやらねばならぬ一つであります。

彼等が自然に對し構圖も面白く出来、重色も出来る様になれば、ある時は何もいはないで場所も自由に畫かすこともあつてよい。然し一般に於いては矢張ある一定の區域に集めておいて始終個人的に激勵し、暗示し、批評し訂正してやるのでなければ、そこに指導者の活動が何も認められなくなる。それでは良指導とはいはれません。

斯くして畫が七八分通り出来上つてから、度々二三間離れて各自の畫を見る様にさせます。そしてその畫の全體の調子がよく行く様にさせる。春なら春の感じ、十一月の末なら末の感じが出て来る様にさせねばなりません。

風景畫のとき色彩の中で特に緑の使ひ方はクレヨンにしても、水彩にしても兒童はよく出来な

い。であるからその重色、混色のことをよく知らせねばならない。

出来上つた畫は各自の畫を皆に見せ、よい箇所、悪い箇所など夫々適宜話してやる。即ちその結果の吟味をさせるのである。一般にこの吟味をあまりやらせなかつたが、その時なり、その後なりいつかはやらねばならぬものであります。

大體、以上の様であります、その時々に応じて異なるのであるから、何時も斯うと許りは定まつてゐません。誤解のない様に願ひます。

問一七八 風景畫に於いて透視畫法を重視すべきものでせうか、如何てせうか
御教示下さい。

風景畫の中特に建築物の含むものは多少透視畫法を顧慮したものでないと見てゐて非常に不安な思ひをするものであるから、私はこの建築物の主となる畫は相當重視すべきものであると思ひます。

いふまでもなく畫は透視畫ではない。それであるから建築物を描くのであるからとて一々透視

畫法に當嵌めて描くべきであるとは言はないが、兎に角透視畫といふものを理解し、ちよつとした線はさう大なる誤りなく描き得る様にさせねばならぬものであります。即ち内にさういふ力を貯へてゐるのであれば、感じて描いたとして透視畫法に外れた部があつても何等さう目障りにはならぬものであります。否それあるがために反つて畫面に一種の霑ひを來すこともあるのであります。

扱、理想としては以上の様であるが、之を學年から考へると、大體尋三頃はさういふことをあまり問題とせず、風景畫をほとんど描かすべき時であります。斯くして尋四より尋五以上と漸次昇るに従ひ、大きな線などは誤りのない様に一同にも注意するが、個別的にも指導してやるのです。特に高等科になつたならば建築物を描かして横の線がどちらが上つて見えるかといふ様なことなどを中心として見さしたものです。

それには長い鉛筆の一端を持ち自分の顔より三十センチ位離し、平らにして片目で向ふの屋根の棟の線に合はして見さすとどちらが、どんなにあがつて見えるかわかるのです。

問一七九 風景畫指導中どんな方面に注意し、批評してやらねばならんてすうか。

これに就いては既に前項に於いても述べてあるのであるから、敢へて書き述べるの必要はないのであるが、然し、以上の他に猶兒童に指導するとしてどんなことを注意したらよからうか、私は兒童へ指導した經驗上先づこんなことが注意すべきものであらうといふものを書き述べて見ることにします。

一 電話が併列したるものを斜横から見れば、遠くなるに従ひ短く見えるものなることを樹木其の他にも應用して注意せねばならない。

二 樹木の描出にはそれが地面に生えてる様は棒を突立てた様に描かず、如何にも大地に生えてる様に描かねばならぬが、それは形の上に如何描いたらよいか觀察せしめるがよい。またその枝にしても同様で、元木より太くなつたり、枝の先が太くなつたりする様なことのない様にさせねばならない。その元木につくつけ根も如何にもついている様にする

- 三 道の描寫には手前より向ふに行くに従ひ、漸次狭くなるものなることを知らせる。
- 四 山と空との境界の描出には餘程注意せしめねばならない。その峯が全部明瞭に單調に描き表はされぬ様するのである。
- 五 風景の中に建築物などがあると、その直線の部を直ちにさし定規の類にて引かんとするものが多いが、それは絶対に使用せしめてはならない。
- 六 『引き寄せ』の構圖は絶対にやらせてはならない。
- 七 あまり細部の描寫に渡らぬ様になさしめる。
- 八 ある構圖を描いたが中心が左に寄りすぎてゐるとか、右によりすぎてゐるといふ場合に、若し一方切斷すればよくなる様な時はさうさせねばならない。
- 九 常に遠近が出てゐるが、調子が破れてはゐないかといふ様なことを注意して見るがよい。
- 一〇 晴天の時は地面その他に陰が表れ様から、そんなものも見ねばならない。
- 一一 ゆつくり一切のみの描寫に没入してゐる様なものは幾度も注意し、その態度を改めさせねばならない。
- 一二 色彩を使用する際など、特に下描きは速く出来る様にさせねばならない。下描きを速く

- するには大體の線を速く見出して紙面にあたりをつけて描かねばならないのである。
- 一三 その時期の色彩がよく出てゐるか如何かを見る。特に緑色の使用に就いてはその自然の變化に應じて混色重色して出す様にさせる。
 - 一四 調子のある色彩にさせねばならない。

問一八〇 静物寫生指導の實際を御教示下さい。

答 静物寫生の指導の場合といふてもその場合々に應じて違ひますが、普通多くやる順序を申しますと、

先づ光線の様子を見てモデル臺上にモデルを配置します。私の所では背景は圖畫教室に固定してありますからそれはあまり考へる必要はないことになるわけです。

斯くして各兒童は自由にその場所々に着きます。總じてモデル臺と各自の距離などは一定してゐるものではありませんから各自が動かして適宜の位置を占めることになつてゐるのですが、各兒童必らずしもよい位置に着いてゐるものとも思はれませんから、指導者側で一應その位置を

點檢し、近過ぎるもの遠過ぎるものは夫々直させて、その紙面に於ける描く大きさ、位置、形の描き方に就いての要領、或は誤り易い點を述べ、猶特にその時間注意すべき點或は努力すべき點を告げて下圖を描かせます。

ちよつと待つてゐると、次々と兒童は形が出来て行きますから指導者は幾度も廻つて個人々に注意して歩きます。

斯くしてちよつと描寫を中止させ、色彩に就いて注意すべきことあらばこゝで話します。これは勿論初めに話すこともあり、斯ういふ様に下圖が略々出来てから話すこともある。どちらもよいことです。

色彩指導のことに就いては尋六頃になつたら、その組一般の缺點或は各兒の注意すべき事項を指導の手帖に書き止めて置いて注意したり色々しますが、色彩の描出の態度の未だ出来てゐない時は、時々

『どの部はどんな色を塗るつもりですか。』とか、

『どんな風な色の描き表はし方にするつもりか。』

といふ様に問ひ種々兒童に言はして見ます。勿論色彩などは一に二を足す三といふ様な答を得

るわけには行かん。寧ろ一致しない位がよい。色々の答をするものがありませう。単一な色でなく色を塗ることに就いての自分の計畫を話してくれば最もよいわけであるが、さう理想的にも行くまい。兒童がいはない重色法或は彩描法で知らしたがよいと思ふものは、

『その部にはこんな風に何と何の色を重ねて塗つて見るもよいでせう。』
 と言つてやつたり、或は

『この部の色彩には同時にその明暗をも描きわけなさい。』

などと言つてやつたりします。色彩は尋一二年或は尋三年位に「こゝは何色と何色を重ねて塗りなさい」などいふことが度々ありますが、然し斯ういふ場合は何時も何色を塗らしめるといふ様に定めては居りません。ですからその時々々に依り違つてゐます。

斯くして色彩といふものは結局各自の考に依り描出せねばならぬものだといふ觀念を植えつけることにしてゐます。

それから未だ描き上げぬ中に度々二三間離れて見るといふことをさせます。出来上つて如何にもならぬ様になつてからよりは途中で幾度も見させる様にするがよいでせう。

その際なるべく指導者も喜んで一緒に見てやり、一言述べてやるといふ様にしてゐます。

大體以上の様であります。が順序其の他は學年に依り異つてもあるし、またその目的に依つても指導法が異つて來るのですから一樣には言はれません。猶他の實際授業に關係した各項の部を御参照ありたいものです。

問一八一 人物畫に入るにはどんな所から進んだらよいものでせうか。

答

低學年の思想畫指導の際、その中に人物を多く描き込ますことに就いては既に「低學年に於いて群集人物を描かせる場合の指導は如何にすべきでせうか。」の項に述べてあるから、それは省略するとして一般としてはその組の誰かを二人位教壇上に出して椅子に腰かけさせ、その胸部以上を描かせます。これは既に私は尋一からやつてゐますが又時には指導者がモデルになり描かせる場合もあります。時に帽子を被つてゐる所を畫かせたりもする。或は本日は横顔を描くといふ様にさせたり、女ならマントを着てゐる所を描かせたりする。以上は半身像であるがさうした半身像を描かせては、次に全身像を描かせるといふ様にするのであります。全身像といふても立つた正面向の行儀正しいのを描かせるわけでありません。

即ち座つてゐる誰さんとか、本を讀んでる誰さん、運動帽を被つた誰君、人形を抱いてゐる誰さんといふ様に、ある動作を畫かせる様にするのであります。

或は又宿題として内の人の誰かを畫いて來なさいといふ様に命じて描かせるのであります。

斯くすることに依り彼等は、人物描寫そのものに非常に興味を感じる様になるでせう。實際これまでの圖畫指導に於いては人物描寫が尠かつた様ですから、我々はこの方面にもつと力を伸ばさせなくてはならぬでせう。

以上は寫生畫の方向のみ説いたのであるが、寫生畫のみが畫でもないのであるから、また寫生を離れても人物畫が出来る様に指導せなくてはなりません。

問一八二 スケッチ指導上の注意に就いて承りたいものです。

答

器物を短時間で描くとか、人物を短時間で描かすには如何いふことを注意すればよいかといふのでありませうが、これは人物などのことに就いて例を以つて申しますと、課すべき學年はまあ尋常六年以上でせう。五年でやらせても指導の方法宜しきを得ればやれますが、

然しこの方面にのみ力をそぐことになり、自然他の指導にぬかりを生じさせますから、まあ六年といふことになりました。

この學年程度以上であれば、矢張初めは二十分間位に區切つて描かせるといふことをします。二十分は三十分としてもよいでせう。モデルを立たせて兎角その時間内で頭部から足部まで全部描き終はせる程度で描かせます。時間が来てはまだ胸部邊までしか描き得ない様であればそんな練習態度はいけないのです。即ち彼等にその定まつた時間内に描くのだといふことを明瞭に知らせ、描かせる斯く短かい時間内に描くのであるから自然全體を見て描出するといふ態度を作らせねばなりません。

斯くして二十分を十五分又は十分といふ様に漸次短かい時間内に描く様に色々姿勢を變へて描かせるのであります。

鉛筆としてはHB位が適當でせう。

若しその兒童達がこれまで靜物などを描かせる場合常に全體を見各部比較しつゝ描いて行くといふ態度を作るといふ様に素描をしつかり指導して來たのでなければスケッチをやらせてもよい成績はあげ得ないでせう。

問一八三 クレヨン使用指導上の注意事項を承りたいものです。

答

クレヨンの價は近頃大分廉價になつて來ましたが、それと共に質も悪くなつたものがある様です。私はなるべく柔かい描きよいもので、色彩も比較的よいものといふことを標準として選定してゐます。而してこれが指導上に於いては、

- 1 クレヨンを軽くも使ふことが出来るし、強くも使ふことが出来るといふ様に指導せねばなりません。特に後者の強く使ふことをよくせないものが多いからこれに就いてはよく注意して指導せねばなりません。
- 2 クレヨンは主として低中學年使用品である關係上漸次濃くしたり、薄くしたりすることの出来ぬものが多いが、これも指導すべき部面でありませう。
- 3 また中には常に重色をなさず書いて行くものもあるが、それではこのクレヨンとしては下品になるから、これは如何しても重色することも指導せねばなりません。
- 4 それからある部は一度塗つた所を小刀で色を削り落して感じを出すといふ様な方法を教へ

ておきたいものです。

5 その畫紙としてはなるべくしまらぬ柔かい感じのするものの方がよい様です。

6 白色の使ひ方を十分指導すべきです。
大體以上のことでよからうと存じます。

問一八四 クレヨンに依る彩色はどの程度が適當てせうか。

答

クレヨンに對する彩色に就いて凡そ二様の見解がある様であります。即ちクレヨンの特徴は自由自在に油畫の様な重厚な感じを出し得る所にあるのであるから、なるべく色彩を力強く表はさしめたがよいといふ説と、今一つはさうしては色彩がアクドくなつて下品になるからなるべくあつさりやんはりする位にとどめた方がよいといふ説であります。

なる程、クレヨンは力強く塗つたりする惡どくなることもある様であるが、それは私に言はせると重色の研究をなさしめないからであると思ひます。適宜重色をなし、色の配置、調和を考へればそんなに下品にもなりません。尤もこれはクレヨンの色彩そのものが下品な色が多いとこれ

は随分苦心すべきことではあります。

後者に於いてはやゝもすると女性的になり、小綺麗になりたがる傾向があります。私共二者何れをとるとも申されませんが、なるべく力強く發色せしめ得る様にも指導したいと思ひます。尋一二あたりの指導は兎角柔かく弱い線を引きますが、先づそれもよいとしてまたある部分などはまた力強く表はせる様に指導する必要があります。即ち強弱よろしきを得させねばなりません。力強く塗るがよいと、言つても隅々まで必らずしも塗らせる必要のない場合も多いのであります。それで自分の感じを出すためにはクレヨンの色々の塗り方を教へ機に應じて夫々描法をなし得る様に指導することが第一であります。

問一八五 五學年以上に色の名稱を教へる必要ある機會には日本名稱にすべきか、或は原名にすべきか、何れてせう。

答

それは矢張日本名稱にすべきが本則でありませう。然し一般の成行としては、英名などに呼ぶことが多く行はれる様になるのでせうが、さういふのであれば英名と同時に日本

名を教へねばなりません。英名を教へるのであれば餘程よく繰返し教へて暗記させねばなりません。要は指導者の根氣が必要です。

問一八六 五學年以上の女子の圖畫時間を一週二時間とすることは出来ぬものでせうか。

答

これは小學校令の上から出来ません。即ち同施行規則第十九條一二「尋常小學校の每週教授時数は三十時ヲ超エ八時ヲ下ルコトヲ得ス」としてありますが、第四號表には手工を加へなくも既に五六年の女兒は三十時間となつてゐます。それで手工を加ふる場合は他科目の每週教授数を減ずることを得るとなつて許りなのです。先づ不可能です。然し實際運用の場合には隔週毎に二時間とするか、或は時間表面には二時間とはしないが、午前の終りの時間、午後の始めの時間又は終りの時間を前か後に時間を繰延べてやつてもよいわけせう。

問一八七 クレヨン畫の場合、その形を何色にとつてとらすかお知らせ下さい。

答

尋一二の思想畫の場合のクレヨン畫など私は鉛筆を使用することを絶対に禁止させます。それは如何してさうするかといふと鉛筆でやらすと兎角繪を小さく畫いて困るからであります。

然し特に教師の指導をして兒童に強く要求する様な場合にこゝだけは鉛筆で線を表はして御覽といふ様なことも時にあります。

同じく尋一二の寫生的指導をなす場合多くは、クレヨンで直ちにその物體の色で形を描かせます。勿論その形の特徴などを種々説明し、描いて示してからやらせます。その線はそのまゝ終りまで描き改められぬ場合もありますし、また着色して見るとあまり力が弱いために別な色のクレヨンで力強くゆつくりと描かせることもあります。

尋三四あたりの兒童に鉛筆で下圖を描かせると、兎角強く描いてもう消ゴムで直しても直され

ない程の線を描いたり、或は先の尖つてゐるために細部の描寫に走りすぎて下圖に多くの時間をとり着色の時間が不足する様なことになるのでクレヨンで下圖をやつた方がよいといふ議論が一般に出てゐるわけですが、私はさうした弊害に陥らぬ様に注意して尋三以上は鉛筆で下圖をとらしてゐます。然しさうと許り定まつたわけではなく時にはクレヨンでやらせることもあります。その時は黄色とか青の様な色で薄く描かせたり、或は矢張その部分々々の色でやらせたりします。一定してはゐりません。これは一定して教へない方が寧ろ本當の所ではありませんか。あまりこれこれと定めると必ずその畫は一樣に型に嵌つた様になります。

問一八八 尋三四位までのクレヨン、クレバス類の静物畫の指導にモデルのおいてある面及びバックの描出は何時も時間に不足を告げるのですが、何かよい方法はありませんか。

答 私はその指導の始めから、側目もふらずにグン／＼描いて行く様に何時も注意するのですが、それでも此の質問の様に時間に不足を告げることが多いのです。それで一面には

柔かく感じを出させようといふことから來てゐるのですが、短かいクレヨンも平に横に紙面に付けて描いて行くと、廣い部分も直ぐに出來て行きます。勿論重色もさせます。即ち此の方法を用ひます方が、効果からも、時間からもよく行ませう。

問一八九 クレバスで描いてそれを柔かく出したい時、指てこする他に何かよい方法はありませんか。

答 これは綿を用意してゐてこれてこするもよく、また畫洋紙をグルグル巻いたものを用意しておき、これてこするもよいでせう。また油潤法といふて、インクの空瓶に綿をつめておき、これに石油なり、揮發油なり入れておき、描く時クレバスをこれに潔しては畫いて行きその上を先の巻紙でこすつてもよいでせう。クレバスで描く時、短かいクレヨンで平に横にして紙面をなでると速く廣い場面が塗られます。それで私はよくモデルのおいてある面や、バックを描かせるのに此の方法を用ひさせますが、それは一面柔かく感じを出させ、また短時間に描き上げ得るので都合がよいのです。

問一九〇 水彩指導に入る基礎指導としてはどんなことが必要でせうか。

答

只漫然と水彩の指導に這入りますと、彼等は形もろくにとらないで雑にして直ちに彩筆で描いて行きますが、あれでは先の成長が疑はれます。

即ちこれまでの子供——尋四まではクレヨンなり、クレパスなりで、自由に描いて来たのです——それも彼等の心理發達、描寫發達の階段から見て、その描寫を我々も面白いと見、またある程度まで透視畫法のこと、深味はどの問題は追求もせずに来たのですが。それは何時々々までも許さるべきものではないでせう。

それで彩畫はこゝで一休みして素描をちよつとやつて水彩に入らせる方が、彼等を成長せしむる上に於いて大切なことであります。水彩に入る前に鉛筆一本で描く——それもある程度までは在來と違つて正しい描出が出来る——可能であるといふ所を見定めてから水彩に入らせたいと思ひます。

それから私は水彩指導に入る前の指導として墨筆で描かせて見ることの練習も面白いと思ひま

す。これは一面日本畫の南畫の様な指導も出来るわけになります。御承知の通り鉛筆の先は堅いものであり、筆の先は柔いものである。であるから水彩なら寧ろ墨筆で先づ練習さした方が面白く行く様に思はれます。私も現をこれを實行してゐます。

問一九一 水彩畫の水のつけ方を教へて下さい。

答

水彩畫に於いては筆先の水を含め加減の上手下手といふことがその出來不出来に非常に關係して來ます。ですから日本畫家などは常に水洗の近くに布を疊んで置いてこれで筆先の水を含め加減を調節します。又人に依つては口で吸つて調節するものもあります。兒童は亂暴にも筆を宙に振りますがそれでは水滴が人に飛び散つて困りませうし、また十分なことは出來ませぬから、全部の兒童に古ハンカチ位は持たしてこれで水分を調節する様に癖つけたいものです。

筆先に水の多く含んだものを紙面に持つて行つてはキツイ線が出來てよく行かぬものです。

問一九二 水彩の混色の方法を示して下さい。

答

水彩繪具の中のプルシアンブルーとか、緑などの色は特にドギツイでそのまゝ紙面に持つて行つては下品になつて見られたものでありません。他の色も何れもさうですが、特に右の様な色は注意せねばなりません。つまりその色にちよつと他の色を加へれば全然感じの變つたものになるものですから、そのことをその時々に応じて指導せねばなりません。一般に

- 1 パレットの上で混色してあまり長く筆を廻してゐては色は濁つて來ますから、一二度ちよつと混ぜ合はす位で紙面に直ぐに持つて行く様にさせるとよいでせう。この呼吸を十分了解せしめたものです。
- 2 ある混色したものを紙面に塗つてその部を何度もこすると、また濁つて來ます。ですからその邊の要領を了解せしめたものです。
- 3 ある色を紙面に持つて行き、その色が六分通り乾いた頃他の色をそこに運んで滲ませる法もあります。

- 4 またある色を塗つてから、矢張六七分通り乾いた頃、水を落してその面に變化をつける法もあります。

混色の方法は無數にあるので一々の場合を實際述べかねます。

兒童各自に工夫させたり、よく出來たものは皆でその畫を一緒に見て鑑賞したり、他の畫を見て参考にさせたり、時々感じて指導するより他はありますまい。

問一九三 水彩畫の下描きとしてはどんな方法がありますか。

答

水彩畫の下描きは多く鉛筆で大體の骨描きをしてから彩描にかゝるのが一般ですが、然し考へて見るとそれ許りとは限りません。それで水彩畫といふものをそんなに狭く考へず、廣義に解釋し鉛筆淡彩式のものも水彩に入れるといふ様にしての下描きの色々の方法を述べて見ます。

第一 に鉛筆で軽く全紙面の下描きをして次に彩描をする場合です。これはごく一般の方法といへませう。

第二には鉛筆で相當形なり、ある程度まで明暗をつけて着色する方法であるが、色を薄くつければ即ち鉛筆淡彩画となります。

第三には木炭で紙の上に大體を描き、之をアルコールに松脂を溶解した液を霧吹きでかけて止め、それに水彩を描くのも一つの方法である。

第四にコンテで前同様の方法もある。

第五に墨汁をペンにつけて描いて水彩に仕上げる方法であるから大いにやつて頂きたい。未だ考へれば他に色々方法もあらうが、一般的な方法としては以上の様なものである。

問一九四 水彩畫用具の使用練習に就き具體的に教へて下さい。

水彩畫用具の使用の巧拙はその上達上極めて重要な関係がありますから、私は次の様に箇條書きにしてお答します。

一 水入の水は度々改めさせ、汚れた水は使はせぬことです。それからこの水入の綺麗な中に風景なら先づ空を畫く様にせねばなりません。

二 水入の水は度々改める様にパレットの面も常に美しくしておかねばなりません。それには筆で綺麗にしたり、又古ハンカチを持つてゐてそれで拭つたりします。

三 筆はなるべく毛の弾力ある太いのを持たせ、且その上方を持つ様にさせます。

四 チューブを使用せしめるならばパレットの上に繪具の並べ方を教へます。即ち繪具を絞出す位置は常に一定され、筆の運ばれる位置が習慣づけられねばならないのです。この並べ方に二通りあります。一は明色から漸次暗色に及ぼすものであり、他は白を中央に置いて一方に暖色を明暗の順序に並べますがよいでせう。私は後者の方をおすゝめしたい。次に一例をあげます。

- カーマイン
- ローズマダー
- ヴァーミリオン
- オーレオリン
- カドミウムエロ
- レモンエロー
- ネーブルスイエロー
- ホワイト
- イエローオーカー
- ライトレッド
- ローシンナ
- パーントシンナ
- コバルトグリーン
- ヴキリジヤン
- コバルトブルー
- ウルトラマリン
- ブラック

五 またチューブの色をパレットに出させ過ぎたり、また惜みさせるのも共によくありません。
 六 その名稱はその色に即して教へます。そしてまた混色の仕方を練習させねばなりません。
 七 筆先の水の含み加減が自由に出来る様にさせねばなりません。児童は一般に筆の垂れさうな筆を紙上に持つて行きたがりますから、よく注意し古ハンカチを左手に持たして常にこれで調節する様に習慣づけねばなりません。

八 筆を以つてパレットで混ぜる場合、筆先で幾度も混ぜ合はすと濁つた色になり、纔か二度混する位にすれば発色がよいものです。また紙上に於いても同じ箇所を何度も筆でなすと濁つた色となり、一氣でやれば発色がよいものですから、それ等のことを十分理解させねばなりません。

九 色の透明不透明といふことも知らせたいものです。また色の寒暖明暗のことも知らせたいものです。(四項を参照)

一〇 チューブの中の繪具は一般に口の所まで来て居る方がよいでせう。所がチューブの中に空隙がある様であると一般に堅くなり易いものです。

問一九五 水彩畫指導上の要點を伺ひたいものです。

一 先づ第一にはその児童は鉛筆一本で比較的正しく下圖がとれる様であつて欲しいと思ひます。猶慾をいへば畫因の明暗なり、濃淡なりが比較的明瞭に觀察出来る様であつて欲しいものです。それでこの指導に於いては尋五の第一學期を鉛筆畫とし、第二學期から水彩指導に入つてもよいと思ひます。

二 水彩畫を上達せしむるには用具のことをよく考へてやる必要があります。即ち筆は先のあまり小さくないもので、堅い弾力ある毛のものがよいでせう。古ハンカチは必らず持参させます。これは常には繪具を包むものを使用し、寫生時にはこれで毛先の水分を調節させます。繪具は色のよいのは勿論好ましいが、同時に柔い色であつて欲しいものです。畫洋紙はルーラーでしまつたものよりはあまりしめてない、少し水を吸入する位のものがよい様です。

三 混色の仕方を特に指導しました常に注意したいものです。特にその中でプルシアンブルー及び綠色の混色法は十分會得させねばなりません。子供には綠色を暖かな色にしたり、或は春ら

しい色にしたり、黄味の多い色にしたり、黒味がかつた色にしたり自由自在に出来る様にせないといけません。それからブルシアンプルューを使はせるとすれば、あまりドギツい色にならぬ様に、またその濫用を戒しめねばなりません。

四 風景の寫生などであれば特に空から先に塗る様に指導せねばなりません。それから一樣に見える様な緑色でもよく觀照させ繪の具の緑色を他の色と如何混色したらよいかを常に注意させる様にせねばなりません。それから形の上からも遠近をつけさせねばならないが、色の上からも遠近をつけさせる様にしたいものです。

五 靜物の如き場合であると兎角バックがモデルの色彩と連絡のない下品な色になり勝であるから、常に全體の色も調子合はせる様にさせることが大切です。

靜物の如き場合は、光線を一方光線とし、明暗を描きわけ立體的に描出せしめたいものです。

六 初歩の兒童としては淡い色から段々と濃い色を重ねて行く方法——即ち明部から暗部に順次ゆく方法をとらしたがよいと思ひます。而して高等科位になつたら、暗部から順次に着色を進めて行く方法をとらしてもよいと思ひます。後者の方は水繪の特質を十分に發揮せしめることが出来ませう。

七 各自の描いてるものは時々遠くはなして見させ、常に全體的に見て色及び明暗の調子をとらせる様にして行かねばなりません。

**問一九六 テンペラ畫指導上に描き方や色彩の順序を一般的に決定する必要
があるてせうか。**

答

テンペラはテンペラとして特別色々の技法があるとは申されませんが、兒童にとつては水彩などより多少これに熟練させないとよく使ひこなせない様です。然し大體に於いて水彩と大同小異であるから、水繪の要領で行つてよいとわけです。

最もテンペラには透明法（これは水彩の様に水でのぼして描いて行く方法）と不透明法（これは卵の黄味で油繪具の如く色を溶いて描く方法）とあるが、一般には經濟上前者が用ゐられるものでせう。

問一九七 低學年に水彩畫を課する是非に就いてお考を述べて下さい。

低學年に於いて水彩畫を課することが決して悪いとは言はれません。指導者が圖畫の指導に熱中しそれ許り考へる位にまでやれば兒童もある程度までは描けます。尤も水彩畫といふと語弊があるか知れないが、兎に角水繪具を使用せしめた畫を描かせ得ないことはありません。然し一般から申しますと、先づ大體に於いて無理であると申されます。ある特殊のものの指導は出來ますが一般としては無理でせう。

問一九八 水彩は何年頃から課するがよいてせうか。

人々の中には尋四頃からとか、或は尋五頃からとか色々にいふが、兒童の心理發達から考へると尋五の第二學期からがよい様です。尋五の第一學期で鉛筆淡彩をやり、第二學期から、鉛筆淡彩又は水彩といふ様に進んだらよいでせう。但し誤解ない様に願ひたいことは特別に圖畫のこのみ考へ、その指導に過分の努力を惜まない様であれば何年からやつてもやれないことはないといふことは斷言出來ます。然し一般的に申しますと、餘り早くからやるのは指導者の努力の割に兒童は伸びないものですから、矢張彼等に夫々適應した材料を用ひますがよいで

せう。

問一九九 郊外指導に於ける一斉指導の可否を伺ひたいものです。

私が平生やつてゐるやり方をお話致します。私は尋三あたりの寫生指導に松の木を描かすことをよくやりますが、二本をモデルとし遠く離れて見て畫になりさうなものを選びます。その場合そのモデルを見るに程よい位置といふものがあるのですから、そこを選んであの寫生なら大體この邊から描いたがよい様です。——尤も此の位置も兒童と相談する場合がありますが、——などと云つて描かせます。中には

『いや先生、向ふから描いてもよいですか、』などいふものもあります。さうした場合その指導に不都合を感じない限り許してやります。さういふ様にしてやるのでなければ自分が今、松なら松の描き方を指導するといふことは出來ないので。自由描寫の場合は彼等から様々の構圖のものを描かせることが出來ますが、直接の指導は出來ませんから、あまり私はやらせません。

一斉指導の場合、あの景色を斯ういふ様に描きなさいなど云つて態々構圖を示して區切り方

まで教へますと反つて結果は窮屈になります過ぎて悪い様ですからそれは私はやりません。即ち一齊指導の長所を述べますと、

- 1 大體一所に集つてゐるのであるから、個別に指導するによい。
- 2 兒童はモデルに對しあまり近よつて畫いたり、又は遠くにある景色の一部分のみを引出して描く——即ち『引き寄せ』の構圖をやつたりなどするが、さうした指導をよく了解する様に具體的に指導が出来る。
- 3 色彩の指導なども各自々に即して實際的に指導が出来る。

問二〇〇 郊外寫生の訓練方案をお示し下さい。

【答】 郊外寫生に兒童を連れて行つてよく失敗する様なことがあります。私がある時高等の兒童を連れて行つた所が、兒童の中で畑の中に這入つて、未だ小さい何かの苗の上に腰をドックかと下して寫生して居つたものがあつて弱つたことがあります。

それからまたある庭の一部に行つて寫生して居つた所、『あなた方寫生させるはよいが、何時

も紙を散らばして放つて行くが困るですよ。』

と言つて怒られたことがある。諸君の中にもさうした経験がだんくありませう。ある地方に行くと農夫達の忙しい時などに兒童達を寫生に連れて出ることを止める校長があります。それは怪しからん話ですが、一つは兒童が遊び半分の様な態度をとるのがないとも限らるのでせう。そんなわけで餘程注意せねばなりません。

大體はその場合列ばせて行きます。そして寫生地に行つたら、此の邊を描きなさいとか、或は兒童の居るべき區域を指定し描かせる様にしています。即ち寫生中は教師の眼のとどく位置に居らせるといふことが最も大切なことであります。それでないと夏の寫生中など川端であると裸かになつて水泳をやりだす子供もないとは限りませんからね。勿論紙屑などをそこらへ散らさん様に注意したいものです。要は寫生中描寫に熱中するといふ子供の態度を作つてやらねばなりません。出來たら一所に集めて批評し、又は個々に歸らすとせば五人位宛一團として行かせる様になります。

問二〇一 圖案は形式より入るか、内容より入るか何れてせう。

答

これは何れとも断定出来ぬ問題であります。低學年の指導としては形式も教へるがさりとてあまり強制しない程度でありたいものです。即ち彼等の裝飾圖案意識を殺さない程度に形式を教へて行くのです。この實際に就いては系統篇の部を御覽下さい。

問二〇二 成績品は如何處理したらよろしいてせうか。

答

彼等は畫を描くと速くそれに対する指導者の意見を聞いたり、採點をして貰ひ、その作品を返して貰ふことを希望するものでありますが、これは畫を専門に畫く人でも矢張作品は自分の手許になるべくおくことを欲するものです。我々もこの心理を汲み、また一層一般を向上せしむる上から速かに處理すべきであると考へます。折角兒童が心をこめて畫いてるのに指導者が集めたきりで何時までも放任しておくとはいけなひと思ひます。

猶具體的に申しますと、尋一二あたりの成績はよく批評してから教師が机間を歩いて『君は一つまる。君は二重まる。君は三重まる。』といふ様に言つて廻ります。すると兒童はクレヨンを持つて指導者のいふた通り描くのです。それから出來のよいのを教室の後方に張出します。此の場合なるべく色々に描出方の違つたもの、題材の變つたものなどを多く出す様にします。また『これは來年度兒童の指導に際し見せるによい出來だ』と思ふのは残しておくといふ様にします。その教室に掲げておく期間にしても二週間三週間も同じものを出しておくといふよりは、なるべく次々と變へて行くといふ様にせねばなりません。

尋三以上は大體に於いてその都度一度集めて見ることにしてゐます。そして出來のよいのを教室又は大廊下の額に入れて出します。私の所では丁度判紙が這入る位の大きさのものを三十許り持つてゐて次々と彼等の畫を出してやる様にしてゐます。それから六センチの十五センチ位の大きさの板に黒漆を塗りそれに『特選』と金文字で書いた札を特によく出來た畫の箇所に下げたりします。またよく出來た畫はこれからの鑑賞畫として學校で保存することにしてゐます。猶各兒童へは必らずその成績を保存する様になさしめ時々の小展覽會に出品させるといふ様にします。

問二〇三 成績品の考査は如何にすべきでせうか。

答

當科の成績は圖畫時間のある毎に先づ一枚宛出來て行くのであるから、それを一枚宛採點して學期の終りに平均するのも實はお互に非常に煩はしいことでもあります。それで私は斯ういふ方法をとつてゐます。

尋三第一學期の五月六月は風景寫生の指導を大分したとする。まあ時間が五時間（五回）あつたとする。さうすると、第四次第五次の成績をこちらで採點しておく。

それから他に花、靜物の寫生指導などもするのであるが、その採點は適宜の時期に前後間をあけて採點するといふ様にする。斯くして採點したものを平均し、更に常平生の状態を見て適宜考慮するといふのが、先づ以つて穩當であり、實行し易いことであると考へます。

それから四十枚五十枚の集まつた成績に就いて採點する場合には初めから採點して行つたのは如何しても総合的に見た採點は出來かねるものであります。それで先づ一應全體のものを見渡す必要がある。或は二度三度と見て行くがよい。斯くして上中下に分類し、猶誤りなきかを見

問二〇四 考査の手段としては如何なる方法がありますか。

答

次の四つの方法があります。

一 個人考査

これは各兒童の日常生活に於いて美を如何程とり入れて居るが、美に對する趣味を如何程持ち合せて居るかといふ様なことや、それから各個の長、缺點、進歩の程度等を調査するものであつて、教育としてはこの部面に最も力をそゝぐべきものであります。

二 一齊考査

これは同一題材と同一材料に依つて時間を定めて描出させるものであります。

三 合同考査

これは一ヶ學年を通じ、或は上級學年・下級學年を通じて行ふものであります。そしてその方法としては同一の題材でなす場合と、同一の材料でなす場合とあり、また兩者を合してなさしむる時もあるわけであります。

四 交替考査

これは何時も同じその指導者のみが指導すると、つひ一方の兒童にのみよい點を附したりする場合が多いので、指導者として一面参考とし反省材料とするためになすのであります。即ちある學級に於いてその擔任の指導者が指導したものを、他の關係ない指導者、或は該科の學科主任とか校長とかにやつて貰ふ方法であります。

或は全職員でやるといふ方法もあるわけであります。

以上の中その主體となるものは一でありませうが、然し他の方法に依つてその指導の反省をなし、また参考とすることは指導者として大切なことでもあります。

問二〇五 考査の時期、回数等に就いてお伺ひ致します。

答

考査の手段としては個人考査、一齋考査、合同考査、交替考査の四種あることを別項に述べましたが、その時期及び回数することに就いて次に述べて見ます。

一 個人考査

これは敢へて時期といふものはありません。いつもがその考査の材料です。即ち我々は彼等の日常の行爲に注意を拂ひ、参考資料は漏さず記入して置くこと、また成績品に表はれたる個人指導に参考となるべき事項を常に記載して指導に資せねばなりません。

二 一齋考査

その指導の毎時に行ふは勿論、指導の主眼とその期間を考慮してその完成期に行ふのであります。

三 合同考査

これは度々行ふ程効果はあるが、さう數多くもやれぬから、第一學期には始めと終りに二回行ひ、他は學期末に行ふ位がよいでせう。或は年一回と定むるもよいでせう。

四 交替考査

同一學年では月一回或は一學期に二回位行つて見るがよいでせう。全職員で行ふことはあまり


に繁雑になるのでちよつとこれは不可能でせう。

問二〇六 成績の評點に就いては如何したらよいものでせう。

答

評點の表はし方に就いては(一)評點法、(二)評語法、(三)評號法、(四)評詞法等あるが、八點とか九點といふ様な評點法は斯ういふ藝術教科には用ひぬがよいと思ひます。

一 評語法には、上中下、優中劣、美良可、甲乙丙、A B C D等の如く上下の階級を表はすものと、またそれと共に語に意味を含めるものとあります。

二 評號法は  といふやうな記しを以つて表はされますが、私は主として之を用ひてゐます。そしてその他に個別に批評してやる様にしてゐます。また批評會をして兒童に批評させたりして、只管此の後の描寫の參考に資する様にしてゐます。

三 評詞法——これは簡単な章句を以つて評定の意味を表はすのですが、私の意見としては兒童に日常接してゐるのであれば、いふべきことは直接本人に向つて言つた方が一番よいと思ふの

でさういふ様にしてゐます。即ちこの個別の直接の注意、批評、激勵を以つて第一とし、評號の如きは單に附記するといふ様な意嚮を持つてゐます。

問二〇七 兒童各自に成績を保存させる良法を示して下さい。

答

此の方法に色々あらうと存じます。學校で各自に茶ボール紙を一枚宛與へて之を二つ折りとなさしめ、これに大小様々の各自の畫を皆これに挿入させて保管しておきます。

或は茶の丈夫な厚いハترون紙で相當な大いさの袋を作つておいて、これに入れさせるも一方法です。若し袋附の畫板を各自持つて居るのであれば無論それに保存させます。

またその紙の大いさが同じなのであれば裏から別に四センチ幅位のハترون紙で張りつぎして折り疊んでおかけるのもよいわけです。

一般に彼等はいい成績を貰つた時は大切に保存し、悪い點の時は棄ててしまふ様な態度があるから、皆保存させ様と思つたら評語法や評號法すら與へず、單に口で批評してやる位にとゞめる方がよいでせう。

問二〇八 圖畫の展覽會を開催するのにどんな方法を立てればよいのですか。

普通の圖畫展覽會としてはその學校の兒童のものをすべて各學年別に陳列するより他は
ありますまいが、私の希望としては猶特別美術室といふ様な意味で特によいものを、額
縁に入れ、教室に幕を張つて上品に陳列したいものです。そして時には特選といふ様なものも定
めてもよいと思ひます。

猶斯ういふ機會を利用して西洋の名畫、日本の名畫の版畫なども別に室を作つて並べたいもの
です。即ち斯ういふ展覽會は一は兒童の教育上から開催し、また父兄から理解して貰ふ一方とし
てやるのであるといふ風にしたいものです。

又種類の方から考へると圖案と畫とは區別し、更に鉛筆畫、水彩、クレパス、クレヨン等夫々
に異つた多種のものを並べ、その題材に於いて多方面に亘つたものにしたたいと思ひます。開催に
際しては進んで各擔任兒童の父兄を集めて各指導者が説明し、努めてその指導内容を明かにせね
ばなりません。(畢)

昭和五年四月二十日
昭和五年四月廿八日發行



圖畫科教育問答

【定價二圓】

著者 大竹 拙三

發行所 東京市神田區下六番町四十八番地 岡本 正一

印刷所 東京市神田區錦町三丁目五番地 鈴木 啓之

印刷所 合名會社 太田印刷所

東京市神田區下六番町四十八番地

發兌 圖書 厚生閣書店

東京市神田區下六番町四十八番地
電話九段三二一八番

時代！時代と併進する教育の完備書！！

見よこの陣容、この盛観

四月迄に全十四冊刊行

絶大好評 定價各貳圓 送料各拾貳錢

各冊三頁 頁内

今日の實際教育界に存する一つの重要な暗影は、日常に必要な理論や、教室内に缺くことの出来ぬ指導手續き等に關し、多くの疑問とあいまいをもつことである。それらを一掃するだけでも、教育にどれほど確信が加はり、不明瞭がなくなり、仕事の能率が増進するかわからない。で、弊害は、先づ全體的に實際家のもつとも疑問とせられる點につき多くの問題を蒐集した。全十四教科にわたり、殆ど一萬に達する質を得た。それらを厳選して一教科につき凡そ二百問前後に約し、もつとも一般的な、もつとも重要な、またもつとも必要な問題のみを採した。それに實際教育について常に権威ある研究を遂げられつゝある諸大家に囑し明快にして整然たる解答を與へてもらつた。暗雲を晴れて、萬象悉く清明を見るに等しい、昭和教育の功績を思ふの士は、そして、日常の教育生活を一定の模範によつて果さんとする士は、幸に一讀をたまへ。

修身科教育問答	東京高師訓導 川島次郎先生
讀方科教育問答	東京高師訓導 宮川菊芳先生
書方科教育問答	東京高師前訓導 水戸部實松先生
綴方科教育問答	東京高師前訓導 千葉春雄先生
算術科教育問答	東京女高師訓導 岩下吉衛先生
地理科教育問答	東京女高師訓導 齋藤英夫先生
國史科教育問答	廣島高師訓導 大久保 馨先生
理科々教育問答	東京高師訓導 堂東 傳先生
圖畫科教育問答	廣島高師訓導 大竹拙三先生
唱歌科教育問答	東京高師訓導 青柳善吾先生
手工科教育問答	東京女高師訓導 山形 寛先生
體操科教育問答	東京高師訓導 齋藤董雄先生
裁縫科教育問答	東京女高師訓導 田原美榮先生
家事科教育問答	未定

店書閣生厚 (段九話電) 八四町番六下區町總市京東 番〇〇六九五京東座口替振 録目育教 録目育教 録目育教

東京文理科 大學教授 神保 格氏著 尋一より 尋六まで 學年別全六冊完成！！

尋常 國語讀本の 發音とアクセント

正しき日本語の確立には？
健全なる現代語を指示するには？
正確なアクセントの指導には？
読み振り朗讀法の手引には？

言葉に正しいアクセントが伴つてゐなければ、國語として完全な姿態をとらぬことは、勿論です。けれども、何故か今までの國語教育の研究は、そこまで迫ることが出来ませんでした。現下の國語教育は、漢字の書き方、假名づかひ等に對しては、餘りに粗略です。母國語の愛に燃え立つ識者ならば、誰あつても覺悟なしにはあらねばなりません。で、今回斯界の權威をもつて鳴る神保先生は、國語教育研究の重心をそこにおき、國語讀本十二冊を、全部發音通り書き改め、それに一々明確なアクセントを附して發表されました。なほ現代日本語としての正確な期するための、發音上の疑問な點についても、詳細な指摘と解説されましたのが本書です。國語の實際指導にたづさはる方々は、必ず一冊を備へ、國語教育を學的に光輝あらしめて下さい。

(入函裝布判菊)
尋一篇 一・五〇
尋二篇 一・五〇
尋三篇 一・五〇
尋四篇 一・五〇
尋五篇 一・五〇
尋六篇 一・五〇

標準語の學的決定・國語教育の新研究！

手工指導書

霜田 靜志
松岡 正雄

兩先生 共著

第一より 全八冊
第一冊 價一圓五十錢
送料 十二錢
【尋二篇以下續刊】

位位的に兒童の本
位的に創作の本
位的に生活の本
指導的であるか
目的瞭然たるか
材料の豊富か
富と清いと豊か
に指導の新しいか
さと懇切を特し
色と懇切を特し
目釋然するか

各教科に比して手工のいゝ本が少い。そのために手工の實踐が向上しない。しかし、世界の趨勢はどうか日本の國情はどうか。教育は日に日に生活に即することを要求され、仕上げられる。兒童は實社會に役立つことを求められてゐる。しかし、この現實的傾向は、必ずしも今までの實用主義の復活ではない。功利主義の蘇生ではない。全一的に鍛へられるその上に課せられた要求である。いはば、現實的處世的完成人への要求である。今や世界の思潮も、國家的要望も、教育に對する期待をそこにかけてゐる。手工科の任務も、考へて見ると重い。

本書の著者は、日本に於ける新進の權威、巨大な實力を傾注して、あらゆる研鑽の後にこの書をなした。手工科の指導書として、恐らく未前のものであらう。豊富な寫眞版や挿畫と相俟つて、明日よりの教科經營を、如何にも自信もて行届いて行はせる。

われらの目標は、良書の刊行である。良書の刊行は嚴密な選擇にある。而して著者の生動する實力の日本的移植にある！

教授案式 小學校 圖畫教典

最新刊
第一用 (全一冊)
第二用 (全一冊)
第三用 (全一冊)
第四用 (全一冊)
第五用 (男子用)
第六用 (男子用)
第七用 (女子用)
第八用 (女子用)
第九用 (全一冊)
第十用 (全一冊)

博士 小西 直氏 顧問
關 衛氏 監修
日本兒童美育會編
各學年用 漸進美裝函入 定價 各書圖五拾錢
每頁凸版說明函入 送料 各書圖十八錢
完成

詳細なる教授參考圖畫を挿入し一目瞭然本書一冊あれば自由に應用出来る本邦唯一の基本書

最近の國畫教育界に藝術教育の實際的見地を持して、常に新鮮なる刺激を興へつゝある日本兒童美育會の諸士が、現今小學校の國畫教育の基本を中心とし、昭和の教典の編纂を世に捧げんとしたものが本書である。第一より高二に至り其間第五第六の男女別を加へて全部十巻に亘る大著で、毎冊學年別教授法の要領を掲げ、各課毎に毎頁多數の教授參考圖畫を挿入したもので、質量共に國定書帖以後に於ける本邦唯一の學習指導書たるを失はない。敢て全國實際教育家は勿論、各學校の必備書として、江湖に一書を奨めてやまない。

小學校手工圖畫 用器画法

新法命令によつて
應用にと多き
拂つた最新實際
と解り易く
心苦の多き
書實際最新

北海道中根孝治氏校閱
北 武田忠雄氏著
四六倍大判上質紙
オフセット印刷
價一圓五十錢
價一圓二十錢

用具の使用法
準備何書法
立體幾何書法
工作圖法

難解なる圖法を避け平易で
如く記述の記述のみならず
と、本圖解と應用の如何によ
り工作し、一冊により幾何
とを同一頁に收め、關係を
苦料を用ひたる生活に於ける
苦心を拂ひたる代表的圖

東京市東區下町六番四八
東京市東區口番五九六〇番
厚生閣書店

讀方教育要説

菊判五六〇頁
 總ボプリン装
 定價四圓八十錢
 送料十八錢

東京
 師高

著者 千春葉雄氏

著者の卓識と眞摯たる生活上の態度より創造されたる教育理論は、裁断にして明快なる自他共に許す所である。遂次發表される著者の努力は絶えず教育界に新鮮なる刺戟を與へ、指導的立場を有してゐる。本書は著者の讀方教育觀を現代思潮を中心として、日常社會生活との接觸を保ちつつ、體験的・實證的に述べられたもの、理論方面に於ける著者の代表的名著として、今日の讀方教育界に勸む。

私の國語教育帳

上下二卷菊判總ボプリン美装
 上卷三五〇頁 價三・四〇 送一八
 下卷六八〇頁 價五・〇〇 送一八

現行國語讀本全卷を素材として、著者が七ヶ年の長日月を費した質量共卓拔の教材教授法の解説書で上下卷一千頁、著者の國語教育實際家としての努力は殆んどその全容を本書に網羅されてゐます。
 (内容抄) 上卷 國語教育私語、國語讀本の諸思想、國語の教育を予する人、兒童觀、教授及學習。
 下卷 國語讀本の研究(主として文及思想に就て)、國語讀本と文藝、綴方小觀、國語讀本の實際。



